

昭和三十年十二月十九日招集(第一号)
第四回市議会定例会々議錄

館山市議会第四回定例会々議録(第一号)

昭和三十一年十二月招集

ハナニ月十九日(木曜日)

一現在議員三十六名でその氏名次の通り

一	番	吉田勇治郎	二	番	鈴木正一郎
三	番	小柴 孝	四	番	館石伝蔵
五	番	田中禄郎	六	番	秋山六三郎
七	番	田村源治郎	八	番	望月照正
九	番	安西益男	一〇	番	辻田 実
一一	番	石井 正	一二	番	黒川佐太郎
一三	番	菊井敏博	一四	番	志村信作
一五	番	小沢恵太郎	一六	番	関 武夫
一七	番	飯田義男	一八	番	西村真次
一九	番	藤田好治	二〇	番	保科忠夫

二一番 江田徳太郎 二二番 君塚喜三

二三番 中村省吾 二四番 島野茂樹郎

二五番 萩生田七郎 二六番 鈴木孝

二七番 嶋田繁 二八番 山口教字

二九番 鈴木市蔵 三〇番 安藤竜吉

三一番 安沢徳順 三二番 三沢節

三三番 高橋文治 三四番 山本昇

三五番 松本藤太郎 三六番 山口康

一 議事日程(第一号)

認定第一号 昭和三十七年度館山市入支出決算の認定について

認定第二号 昭和三十七年度館山市特別会計公益質屋入支出決算の

認定について

認定第三号 昭和三十七年度館山市特別会計国民健康保険入支出

決算の認定について

認定第四号

昭和三十七年度館山市特別会計と畜場々入々出決算
の認定について

認定第五号

昭和三十七年度館山市特別会計波左間及び加賀名地
区簡易水道々入々出決算の認定について

認定第六号

昭和三十七年度館山市特別会計休養施設々入々出決算
の認定について

認定第七号

昭和三十七年度館山市特別会計館山テニスホステル々入々出
決算の認定について

認定第八号

昭和三十七年度館山市特別会計鋭切簡易水道々入々出
決算の認定について

第二通告質問

第三 議案第二七号

議決、変更について

第四 議案第二八号

館山高等学校用地の購入について

第五 議案第二九号

館山市学校取員給与条例の一部を改正する条例

の制定について

第六議案第二〇号

館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について

第七議案第二二号

昭和三十八年度十二月に支給する期末手当の特例に关する条例の制定について

第八議案第二三号

清掃用ダンプトラックの購入について

第九議案第二四号

電動記録計算機の購入について

第十議案第二八号

事務改善用備品器具の購入について

第十一議案第三九号

千葉県農業信用基金協会への加入について

第十二議案第三〇号

館山市農業近代化資金利子補給条例の一部を

改正する条例の制定について

議案第二三号

昭和三十八年度館山市一般会計支出追加更正予算

議案第二四号

昭和三十八年度館山市特別会計国民健康保険支

入支出追加更正予算

議案第三五号

昭和三十一年度館山市特別会計休養施設又ハ又出

追加更正予算

議案第三二五号

昭和三十一年度館山市特別会計館山市スホステル又

入又出追加更正予算

一、法第百三十一条による出席説明員

市

長

本間

護

助

役

小出武男

秘書課長

小倉登男

税務第一課長

高木哲三

税務第二課長

多田俊一

農産統計課長

伊藤幸太郎

厚生課長

吉田耕一

市民課長

羽山房雄

建設課長

新井重助

南永產課長

長谷川 六治

福祉事務所長

鶴 沢 實 寛

環境書記長

大 島 重 義

企画室長

谷 貝 茂 生

観光課長

小 沢 正 治

保険課長

池 田 亮 山

総務課長

山 口 実

消防署長

岩 田 実

教 育 長

工 藤 和 平

庶務課長

干 場 伊 右 衛 門

一本議會より事務局長、書記及び公取員

事務局長

高 梨 清 一

事務局長補佐

太 田 博 雄

書 記

矢 藤 恭 一

取 員 錦 殿 睦 子

一 出席議員 三五名

一 欠席議員 一名

四 番 館 石 伝 蔵

午 前 十 時 十 分 開 会

。議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数三十四名。

こゝろ 第四回市議会定例会を開会いたします。

こゝろ 際、報告申し上げます。

本市監査委員より十月、十一月、十二月に実施した例月検査
及び公益質屋の監査の結果が報告されておりますので、
お手元に配付の通りであります。

本定例会場に本間市長、小出助役、山口課長、小倉課長

長谷川課長・小沢課長・新井課長・羽山課長・伊藤課長・池田課長・高木課長・吉田課長・鶴沢所長・若田署長・谷夏室長・大嶋書記長・工藤教育長・千場課長・伊東主事・若崎事務長・以上、出席を求めましたので、報告いたします。

会議録署名員の決定を行ないます。

本定例会の会議録署名員に七番議員田村源治郎君・三番議員・安次徳順君以上兩名を指名いたします。ニハ、中々異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中々異議なしと認めます。よって決定いたしました。

会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につき、議会議長菅協議会の意見は、

本十九日より二十一日までの二日間ということであり、
おはかりいたします。会期を三日間と定めますことに、中
議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(里所佐太郎君)中異議なしと認めます。よつて会期
は、本日より二十一日まで三日間と決定いたしました。

本日の議事はお寺元に配布の日程表により行ないます。

まず、本定例会の議案について、市長より説明を求めます。

(市長 本間 義君 登壇)

市長(本間 義君)中挨拶申し上げます。

本日、本年最後の定例会を招集いたしました。が皆
さま方には、師走のあわただしいところ、中参集をわづら
りし恐縮を存じます。

さて、本日上程いたします付議事件は、認定関係で

は、昭和三十一年度釧路市一般会計ほか七特別会計に
又ぶ歳入歳出の決算の認定でございますが、これは、
自治法二百四十二条、オ二項の規定に基づきまして議会の
認定に賦するものであります。

一般議案関係で上程いたしますのは、条例関係二件、
物件の購入三件、予算関係四件、その他でございますが、
議案第百十七号議決の変更について述べますと、今回上
級審方より起債に対する通知に接し、まして年度当初
議決をいたさし、起債の目的中議決の変更をわ
ずらわれない事項が生じ、まして、変更をお願いする
次第でございます。釧路高校园地購入であります。が、
わけて計画中に支障がまゝとまらず、未整理となつておつた
ところであります。が、今回目的が果たせることになつた
であります。

議案第百十九号は、館山市学校取員給与条例の一部を
改定、新たに工業課程を置く高等学校の助手について
産業教育手当を支給しようというものであり、また、教諭
に準じて優遇措置をほらうとするものであります。
第百二十号は、館山市学校安全共済掛金徴収条例の
一部を改正して児童及び生徒に対して一人共済掛金
を十円から十八円に改めようとするものでございます。

議案第百二十一号は、昭和三十八年度十二月に支給いたします。
期末手当の特例に供する条例の制定であります。が、上級
官庁との協議も整いまゝで上程するものであります。
百二十三号清掃用ダンプを随意契約によつて購入しようとい
うものであります。

議案第百二十三号乃至議案第百三十九号については、
昭和三十八年度一般会計及び特別会計にかかります。

歳入歳出追加更正予算であります。

一般会計中、おもな支出といひまゝで、人件費六百五十万円、事務改革器具購入二百三十二万円、道路橋梁におきまゝで二百二十九万円、学校埋立工事費二十九万円、生活保護費関係が千五十万円、産業経済費関係では資料作物転換促進、事業補助百千六万円、漁業関係では沿岸構造改善対策九百七十万円、その他観光事業として、国定公園整備事業負担金、及び移転補償費関係が三百三十九万円等であります。

その他特別会計については、本回、期末手当による人件費の追加等であります。が、休養施設会計につきまゝでは、一般会計へ繰り出し、百万円と電気冷蔵庫庫購入四十万五万円があります。

議案第百二十七号から百二十八号は、明年四月から実施

いたします事務改善に際しまして、ぜひとも必要を要する
備品と計算機を購入してありますが、一部を初年度に
おいて債務負担行為として負担いたすと思ひます。
百二十九号におきましては、千葉県農業信用基金協
会に加入することになりまして、円滑な運営を期しようと
するものであります。

議案第百三十号は、館山市農業近代化資金利子補
給条例の一部改正であります。これは、基本法令の一部
改正によりまして用語等を改めるものであります。

以上、簡単に説明申し上げましたが、なお、詳細につきましては、各関係課長をして説明させていただきますので、慎重な片審
議をお願いいたしまして、御挨拶といたします。

。議長(黒川佐太郎君) 日程第一 認定第一号乃至認定第八号 昭和
二十七年 一般会計並びに特別会計決算書を一括して

議題といひします。

(書記朗読)

認定第一号 昭和三十七年度館山市歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和三十七年度館山市特別会計各益費屋敷入歳出決算

の認定について

認定第三号 昭和三十七年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出

決算の認定について

認定第四号 昭和三十七年度館山市特別会計と畜場歳入歳出決算

の認定について

認定第五号 昭和三十七年度館山市特別会計被左衛門及び加賀名地

区簡易水道歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和三十七年度館山市特別会計休養施設歳入歳出決

算の認定について

認定第七号 昭和三十七年度館山市特別会計館山市ス・ホテル歳入歳

出決算の認定について、

認定第八号

昭和三十七年度釧路市特別会計鉅切簡易水道歳入

歳出決算の認定について、

・市長(本間 譲君) 認定第一号乃至第八号につきましては、地方自治法第二百八十二条第二項の規定により別表監査委員の意見書及び重要な施策の成果報告書を中参考としてよろしく審議のほどをお願いたします。

・議長(黒川 佐太郎君) 以上で説明が終りました。

・三三番(三沢 節君) この際動議を提出いたします。

ただ今、議題となっております認定第一号乃至第八号、昭和三十七年度の釧路市の一般会計並びに特別会計決算書の審議につきましては、本日は上程に止まり、質疑以下の審議を後日に繰り延べて直ちに次の日程に進めよう、ここに議会運営協議会を代表いたしまして動議

議を提出いたしまして満場、中賛成を得たくお願いいたします。

議長(黒川佐太郎君) くだ今、三番議員君より提出された議事進行に関する動議を議題といたします。おかけいたします。三番議員君の議事進行の動議に中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって動議は成立いたします。

従いまして認定第一号乃至第八号、審議は後日に行ないます。

次に日程第二通告による一般質問を行ないます。通告の議員は二名であります。

以下より順序により二番議員 君塚喜三君。

(二三番議員 君塚喜三君登壇) (拍手)

・二三番(君塚喜三君) 君塚でございます。

城山の開発、わけでも館山城の建設について質問します。責任ある吉質を望みますので、あえて本議会に通告をもつて質問に及んば次才であります。

只今から質問の要旨を申し述べ、明確なる回答を期待する次才であります。

私は、城山は市の観光のセンターとして是非とも開発しなければならぬと信ずる者であります。そうしてその中心的施設として館山城、天守閣の早期実現を期待する者であります。

もつとも、天守閣といえども、城にちなんで外形、天守閣の中身は、郷土資料館であります。天守閣は山城型は、その構造上、屋上は展望台となります。

一石三鳥の文化的観光施設の實現を期待する者であります。

ところで、このような構想は私一人のもものではなく、自新らしい構想でもないはずであります。なぜならば六年前の昭和三十二年九月の定例市会において里見氏居城復元資金積立金条例の上程に當つて、脇田順一議員の質問に答えて、田村前市長が明らかなに構想心でもあつたからであります。前市長は、次のようにいっております。今議録によります。

「館山市の観光の中心といつて、館山城を一つの拠点とする。今の考え方から参りまして、城の形のものに依り、内容は、館山市博物館、考古記念館というふうな内容をとり、なほ三階からは、房総十村一覽台という展望台を作りたいという、史実と現実の観光を

くらみ合わせたり一つの建物を館山の城山に依りたいという
のが念願でございまして、必らずしも城山は三層の金
ピカの天守閣があつたというはつきりした事実はないわ
けでございまして、今の新しい考え方から一つ、観光
建築物を作りたい。こういうふうにお考えにや了解願
いたいと思つたわけでございます。このようにしてあります。
私は内容を郷土資料館に取つたことであります。

ところでここでまた質問と関連を持ちますので、そうして
質問要旨の十分な理解と再確認、再認識願う
ために里見氏居城復元資金積立金条例が設定され
まして、これらの経過を私の知る範囲におきまして簡単に
にかいつまんで申し述べます。

昭和三十二年九月の定例市会で里見氏居城復元資
金積立金条例が議決を見てから、昭和三十四年までの

三十九年二百五十万円が積み立てられました。そうしてその三十四年の九月にいよいよその具体化として、前進すべし前市長のもとに館山城復興期成同盟会の発足を更にお力でございします。ところでその頃京成電鉄株式会社とつながりを持つといわれる某氏が市長のもとに出入りを始めたという情報に接したのであります。三十五年五月、館山城復興期成同盟会の第一回の総会が開催され、会長には市長推薦による館山病院の穂坂氏が選任され、そうしてその席上において市長から館山城の建設について市自体でやまか、外資導入でやまかの提案がなされた。その後付託された理事会において外資導入に決まらぬと聞いております。そうして、その年の九月には、京成電鉄の取締役社長、川崎千春氏から正式に書面をもって市長宛に

館山城建設について協カ方々申し出があり、早速よろしく頼むとの返書が返されております。

思うにそれ以前京成とうつながりを持つといわれる某市の市長のもとに出入りは、正式申し出前であつたと思うにかたくありません。ともあれ、昭和三十四年まで二百五十万円積み立てられたそれ以降一銭も積み立てられていない。今日に至る次第であります。以上が私の知る経緯のあらましであります。もし、間違ひがあれば訂正をいただきます。

そこでただ今から賛同の要旨に入ります。

まず、第一点として、今日死文化の状態にある里見氏居城復元資金積立金条例、以下積立金条例と略称いたします。市当局は一体どのように考えているかという点であります。

積立金条例は今日も例規類集の上にはっきりとつて

いまうになぜ積み立てないのか。なぜ死文化の状態でよろ
うにしているのか。この積立金条例からすれば、私は当
然に積み立てなければならぬというか、理解できないので
あります。そこで思ふことは、昭和三十五年は今の貧弱
な市の財政で立ちなもつを建てざるより、外資導入で支
るべきとして、京成電鉄に依存する方針に切りかえたこ
とによって、この積立金条例は、その目的を失つたと解
すべきだろうかということであります。このことについては、
議会会議録にのっていないので、私には確かになことはわかりま
せん。ただはっきりすることは、本会議に上程されていないと
いうことであります。

ところでこの積立金条例がその目的を失つたとするは、
一体どのような意図のもとにそのような姿で今日なほ通
存されているのだろうかとの疑問にぶち当たる次第であります。

が故にわざと積立金条例という市の条例を死文化を招く
ような基本的な問題については、本会議に上程してその
承認を求めたわけだろうや、さらに条例の疑問点
から派生する疑問の点として外資導入と京成電
鉄依存の方針に切りかえていないとするならば、積立
金条例そのものについて、当然、その後も積み立てられな
ければならぬことの見解と市当局の見解とは、全
く相反するものとなるわけであります。

従いまして、市当局のこの点に関する見解を付属質
問としてお答え願う次第であります。

第二点といたしましては、中存じのよう、城山は、固定
公園内において特に景勝の地としてその風致を維持
するため特別地域を指定がなされております。

そのため、この地域内での行為については制限が法

的に定めておられます。

と同時に昭和三十四年にこの城山は、広い範囲にわたって館山城跡として市の文化財指定がなされてあります。これにも当然その保護のために制限があります。わけであります。ともある市当局は、観光開発の上にこの制限の点等を含めてどのような考えを持っておられるか。例えば、史跡指定を全面的に解除してただ単なる山として開発しようとしていくらっしゃるか。最近における市の当局の城山に対する言動は、市の史跡指定という点を全く離れてただ単なる山として開発しようとしている。ような印象を多分に私たちに与えるものであります。私は城山の城山たるところは、城山の生命は、その史跡にあると思います。従いまして、その史跡価値を減殺するような開発の方向は取るべきでないと思うが、この点

市当局はどのようになつておられるか、郷土の文化財を基礎とした観光開発こそ他でまねできないものであり、房州の特色を生かすものである。観光の面ばかりでなく、教育面に大きな役割を果たすものであると考える。いかがでありますか。

第三点といつてもよいでは、第一点の質問の内容に大きく関連を持つものであります。第一点の関連の中からあ

る程度の了解を引き出し得る面があらうかと思ひます。ともよみ先の経過の中で申し述べようのように昭和三十五年に鎌山城の建設について外資導入と京成電鉄依存の方針を打ち出したわけであります。今日もなむ、この方針でよろうと考えていらつてやまのか。少くとも、今年三月頃までは、この方針にめづりがあるかと思ひます。いかがでござりますか。

京成電鉄の協力とは、次うようなものでありと願ひてお
ります。即ち、神戸のゴルフ場の建設について必要な私有
地の買収、洲崎灯台、観光港域に必要な国有地の
払い下げ、これに市が協力してくれなれば、天守閣を
立て寄付する。ただ一階だけは使われては
という腹であつたと思います。

この天守閣建設の時期といひまゝ神戸のゴルフ
場、洲崎灯台、地先の観光開発工事着工と付随
して行なうということから市は、この前提条件を満たす
べき努力せられたことと思ひますが、その見解と見解は
どうですが、お尋ねする次第であります。

最後にあたりまゝ、第四点といひまゝ、館山城建設
以外の開発計画があるのか、あつたらこれを束ねては
以上であります。明確に御答弁を重ねて期待いたし

ます。(拍手)

(市長 本間 譲君 登壇)

・市長(本間 譲君) 君等議員の質問に對し、お答えを申し上げます。

里見大居城復元条例制定當時の事情は城山に里見城を復元したいという地元地区の熱意が結集して資金の積み立てを開始し、かような計画を推進するためには市は資金を積み立て、地元地区の熱意を積極的にバックアップしていくことが、この条例第一条にもうたわれているものでありまして、当初から市資金としてこの城を作るという目的で設けられたものではないわけでありまして。

たまたま京成との話し合いなどということもありましたけれども、その頃、地元では積み立てを中止して、おき、市といた

しきしては、できるならば、このような事業は大きく外部資本を利用することがよいということとで折衝して参るにわけでありすが、京成とトヨヨーでは現在におお、その望みも完全には捨ててしまふものではありません。ただ早急に具体化することはないのであらうと考へられております。

市といふトヨヨーでは、この条例を廃止すまぬというわけについて、結論的段階に立ち至つておりますので、一応条例は存置いたしきして、一昨年度から、利子のみの繰り入れ積み立てだけに止めておる次第であります。

利子以外の積み立てをやらぬことが条例の死文化でありまは、解いておきません。トヨヨーながら、今後、地方自治法の一部改正によりきして、この条例を存続するならば、来年度からは、この条例の内容を改正する必要に迫られておりますので、近期中に結論を出しきして、三月是例会に

上程する予定であります。

次に城山の観光開発につきましても、史跡指定を解除し、取りまは、史跡価値を減殺するようなことは考えておりません。また城の建設という点につきましても、当初の申し上げもいたが、金額市費でという方針ではなかったわけでありますが、また反面、京成依存に切りかえたということでもありません。ただ将来市の観光上施策推進上、支障のないような条件で出資がふくことは、議会にもはかりまゝして、処置をとりて参りたいと考えております。また城の建設以外の計画といつても、早急に総合計画を具体化すべく、果う計画課において、目下設計に入っておりますが、果とも相談いたしまして、植林等、各種事業を実施中であります。なお、来年度展望台を建設する計画で進んでおります。おわり

になりますか。

・ニニ番(君塚喜三君)お尋ねいたします。ただ今、星見氏居城復元条例という市条例は、これは、地元の熱心者のバツアップである。こういうふうになつてゐる。では、このことについて、深く掘り下げて質問いたします。

なまほど、この城山観光開発問題、わけでも、館山城の建設問題については、地元の要望に始まったということに、つきまゝでは、私は否定はいたしません。

一、しかしながら、地元の要望によるものだから、これは、地元がやらなければならぬ問題であるというふうには、理解をいたしてありません。

では、お尋ねするが、この城山、観光開発は、あなたのおっしゃる地元というのは、地元部落ということだと思いますが、地元部落のため、観光開発であるのか、その観光開

発は、一つの文化的観光施設、言葉をかえれば公共施設だ。
こゝは、田村前市長もこの積立金条例を上程の際に先
ほど説明のときに申し上げた通り、館山市博物館、若
古記念館というような内容のもつてある。私はこゝを郷
土資料館という内容に置きかえたまでであります。

こういったもつを作る。このような施設をなぜ地元部落の熱
意、あなた方の熱意とおっしゃる方は、金を出すこととやうで
あります。而ち、寄附を集める熱意のこととをいつていらつし
るのではないかと思ひます。

なぜこういった施設を地元の寄附において大部分をまかなひ
たいかはならぬやう、こゝ考え方、自体に對して大きな疑問を
持つてあります。

地元の問題だとして解釈するならば、三十二年九月以前が
問題だ。市が条例を制定した以上は、その第一條にあるよ

うに本市は、考古資料に基いてとある。そ、本市とは、
地元部落のことというのか、この点について明確なやり答弁
を願います。

・市長(本間譲君) 地元の方が金を出す、或いはその他、面々
ついて協力する。こういうことが始めに打ち出さるまで、こ
条例ができたとは私は考えております。一、地元の方では
なかなか大きな金は、でないわけでございます。後、田
村市長さんが京成にお話して、京成と結を強めてきたのが
事実であります。市といえども、地元の熱意に二、三
外資導入を、一、二、一日も早く、あつたように、
というふうに考えておまわりでございまして、私も先般京成の
川崎社長さんとお会いして、これをたどった。
そう、一、二、今、あなたが、おっしゃったように、ゴルフ場ができて、
所々、観光開発ができればやろう。

ーかー。やるについては、つまり、あそこ、附近の地所を払い下げを希望しておる。こういうふうなわけでありまして、私が見たところでは、早急にはいかないんじゃないか。こういうふうな考えられたいわけでございます。

いずいにーまーでも、地元と市だけでは、なかなかできないから、京成でなくても、あの山を開発するという方があれば、そういう方に相談して、そういうことが進めば、皆さん方と協議して、やってもらいたいと考えております。

・ニ番(君塚喜三君)だから城山の観光開発というわけは、地元部落のための開発かということをお尋ねしてゐる。

市の施策としてやるかどうか。地元部落のために観光開発してやるのだという考え方でするか。

地元から要請を受けた。地元から要請を受けたから、積立金条例という市条例を作つて予算上り裏づけをい

た。これはどのような要求があつても、そのような裏づけを
なさいますか。 そうではむくてやはり市当局においても、
その重要なことを認め、必要性をとくと、評価しなから
こそ、市当局においても市条例といったようなものを制
定してまで、その裏づけの予算を措置したうではないん
ですか。いかがです。 ところが、明確なやり取りを願いま
す。

・市長(本町蔵君) これは、お話のように、熊山地区の一部の問題
ではございませんし、観光上、重要なことでございしますが、私
が申し上げたのは、当時、そういうことで、お発してきただけい
も、時代がかわりまして、もっと強かに外資導入とかいさ
ら、口方面に働きかけて、必要があつた。こういうわけでございます。
現在でも市費を投じて、おれば、三十五年頃からです
か、やがては、仕方がない状態になつております。これを

五十万位、市費を出してやっております。今年はつつとや
つばき、そういうものをやります。果う方でも展望をそういう
ものを設置しよう。こういうことでございまして、私は城とい
うことは、なかなか大へいのでございますが、城が時代向きか
ということもございまして、郷土館もいいのではないかとい
うことを考えます。

。二番（君塚喜三君）私は里見氏居城積立金条例そのものにつ
いてお伺いしてある。これは、市条例です。ということは、市
の法律です。時代がかわつたからといってこれを無視して
いいのだと、この条例審議の過程においてこのよう
な事情があつたから、この条例については、いい加減であつて
もいいという理論はなり立ちますか。

国々法律でもそうではないか。国会の審議の過程においては
強烈な反対もあるばかりか、ときにより、事態も引き

起こした場合さえあつてはいいか。一端議決された以上法律としてたゞもこれに従わなければならぬ。市条例は市における法律だ。同じことではございませんか。一々も市条例を政治的解釈しようとおつてゐるのか。法令の解釈を政治的解釈でいいというも考えでありますか。そういうことが正しいということならば世の中から犯罪者が減ってくる。一人もいなくなる。いいがです。この点明確なる所答弁を願ひます。

。市長(本間義君)つまり条例を尊重していくということには当然でございます。まだ市条例積立金をやらないうてはなぐやつておるわけで、一々も時代が世論の關係上、どんなことがあつてもいつまでも守らなければならぬということはない、こういうことはいいと思ひます。これは皆さんはかつて案ができれば改正してもいいんじゃないか。現在は、

まだ改正して貰わない。多少でも利子でも積み立てはいて
おきわけてくれます。

・ニ番(君塚喜三君)もう少し勉強していただきたい。里見氏居城
復元積立金条例を申いていただきたい。

第二条 どのように書いてありますか。いいですか。私が読み上
げます。「前条の積立金は、毎年度予算で定める額
の範囲内とし、その財源は、一般歳入の一部をもつて
これに充てるものとする。」「前項の如く左の収入は、積
立金に繰り入れるものとする。」「一「積立金より生ずる収
入。」「二「指定寄附金。」「三「このようになつておる利子は、積
立金自体でない。繰入金だというふうにかゝる条例に明記
されておるではないか。この積立金より生ずる利子は、これに
充てよう。これは、積立金利子は、積み立てれば、
積立金にはなりませんけれども、積立金自体ではない。

他の収入だ。いねがです。だから私はあえて一銭も積み
立てていないと申し上げた。市会を願っています。

。市長（本間 義彦）こゝを調べて見ますと、三十九年から、やっ
ておらない積立金をあなただけのお説のような積立金は、やっ
ておらない。私、その当時のことは知りませんけれども三十九

年、私の責任の立場でなかった時代ですが、その当時、
ことを知りませんけれども三十九年からやっっておらないわけ
ですが、やはりそこにはよくわかりませんけれども、何れ意
図があつたのではないかと思いますが、私は時代の変遷
によりまして改正すべきものは、皆さんにはわかりまして、改正
していく方がいいんじゃないかと思っています。

。二二番（君塚喜三君）では市長さんは、その頃いらつてやうな
かつた。こういうことでわからないと、おつてやいますので、当時
からいうと、いさす助役さんは一番最初から、こゝ肉類

には、携りていらつゝやったはずである。従つてこれから助役さん
に質問いたします。

ただいま申し上げました利子は、積立金ですわ。いかがです。

私は三十五年以来全然積み立てられていないと申し上げてお
る。いかがです。

・助役(小出武男君) 利子が繰入金かどうかという解釈について
は質問ですが、これは条例によりますと、積立金に繰り
入れるというのだから大きな意味ではやはり積立金に繰り
入る。方法としては、繰り入る。金体からいけば積立金に
入っていくから積立金と見ても差一つぬえなひと思います。
それから、先ほど市長が答弁に對する再質問がござい
ます。ただ、積立金条例の趣旨は先ほど市長の申されま
したようにあくまでも、市が主体になつてこの基金ではなく
資金をもって市が指導的にやるという性格でなくて、あ

くまでも地えで起った計画を推進するためという条例でうたつておりますように地えを応援して一般淨水を投入してやつていこうというのが、さむくとも、この条例できた當時の精神ではあつたわけでございます。

参考のために、そのとき、質問に市長、答弁がございますので速記録から参考で紹介いたします。その条例趣旨がはつきりすると思ひますので、その趣旨を申し上げて見たいと思います。ある議員の質問でございます。

それに対して、「あくまでこの条例にあります通り里見氏居城の復元に関する推進をはかる旨に決まっております。言葉をかえて申しますならば、呼び水と申しましうか。全額市費或いは、市内外の寄附に待たなければならぬと思つておりますが、カーナから、館山市といつても、呼び水の意味で差し当り百万円を計上して、また云々して、さらに館山地

区におきまゝとは、即既に日掛野金をいたして町内会で集めておるようなわけでありまして、また、その後里見会を結成させ、里見居城に關する研究もかなり熱が入つてきておる。もう大才でありますので、この機会をとらえてその計画を推進するという意味におきまゝで、議案にのせて提案するうだ。レ、こういうことを答弁をしております。と申しますのは、やはり今申しましたように市が主導権を持つて年々積み立ててその金で作るのだということではなく、地えで集める空氣になつたから、地えだけではまずいで、市費も入らまゝで、ともどもに均衡を取つた両方で積み立てていつて、そうして、将来やろう。こういう計画を推進する意味の積み立て案例でございます。

ところが、これができたとたんから、一角が欠けたといふすか、片ちゃんばにのりまゝで、私もからいを見ますと、

市だけが先行してしまつて片ちんばうことになつたので、
条例の趣旨から、もうすぐでに一角が欠けておつたというの
は、解釈すれば見らゆるわけでございます。

・二二番（君塚喜三君）どうも、以外なや答弁をお聞きます
るわけですが、あなたは積立金条例の制定当時のこと
をいろいろおつとておますが、——ヤ——田村市長の
提案、既に鳩貴議員さんの質問に答えていらつた
のを議事録から申し上げます。

「短時日に収入は計上して支出というものは最後、年に出
す」という意味の支出というものでございす。」

短時日に収入は、計上——してというものはいつまででもいいと
いうも考えですか。

重ねて質問いたします。要するにこの計上は、積立金の
計上は、市の予算に余裕がなかつたから積み立てたか

ったのだ。積立金条例の「予算で定める額」範囲内という字句の解釈の上に立つて、あなたは、予算上、余裕がなかったから、積み立てなかったのだ。こういうことじゃございませんか。

・助役(小出武男君) 先ほど市長から説明がありましたが、三年間五十万円、四十三万、三十九万というふうな三年間続けて利子もまけて五十万円、三年間継続してあります。

これは、やはり今申しましたように条例というものは、その趣意を尊重しなけねばなりませんので、やはり地元がそうであるから、すぐにやめということではなく、あくまでも推進の意味で立てた条例でございますから、やはりいつかは、そういう線にのっかってきていただきたい。

こういう希望があったわけでございます。そのために三年間継続してあります。たが、その後先ほどお話のありましたように

京成の問題やら、いろいろの話題が出て参りました。

さらにまた、当時と情勢が少しずつかわつてきております。

仄聞するところによると地元の空気が、こゝに對する

いろんな意見もあまやに聞いております。というふうな関

係で正式の積み立ては——ない。予算のあまひしというこ

とでなく、一応正式の予算積み立ては——なくて、条例が

あるから、利子をもって積み立てる形式に代えていくという

暫定的な考え方に立つたわけでございます。

・議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午前十一時〇〇分 休憩

午前十一時二十五分 再開

・議長（黒川佐太郎君）休憩前に引き続き会議を開きます。

。三番(君塚喜三君)重ぬて賛同いたします。外資導入と京成
電鉄依存ということは、正式決定のものではないということ
は、本会議に上程されていません。これはごもつともだと思
います。それでなければならぬと思います。ーかし、これを
裏返せば里見氏居城復元資金積立金条例ということ
は、今日なお生きておるということですね。そうでしょう。
では、私は小沢観光課長さんにお尋ねする。

あつたは、去る十一月十七日下町の見番におけるところで観光
協会館山支部の役員と館山地区の区長、合同会合の
席上において、新井の山野区長さん、賛同に「館山城
どうなのかい」という賛同に対してあつたは、「まだあな
方は、城はあきらめないんですか」ということをおっしゃった。言
わないとはいわせない。これは、一体どういうことな
んです。「あきらめないんですか」ということは、あきらめなければ

ならぬ根拠はどこにあるか。

「まだあきらめないんですか。」ということとは、こいまでこんな
 こうこうだから、あきらめなさいということをおっしゃった
 ことがあまるか。観光課長に市賛成いたします。

・観光課長（小沢正治君）あ、会々席上、そう一た言葉
 を私が使ったかどうか記憶してありませんが、そういう言
 葉を使ったとしても、それを市のはっきりした方針でそう
 いうふうな方向へ地元の意向を何とか一たかえさせて
 おきたいという意図で出た言葉ではなくて、大体、ああ
 いう人たちが間では、いささか減でもないというような
 言葉のやりとりがあったので、そう一たこともちっとも
 だと思おうのです。大体最近の情勢といえま
 いて、地元の金と市費をもつて、こいを建設するとい
 うことは、非常に無理であるというふうな方向がは

つまり、できておりません。どうせあるなら、一千万、二千万も、でなく、いわゆる大型のものでなければならぬ。ではないか、ということとは、現在、情勢からいって、鑑山城とある城山に建てる場合に、その目途とするところは、やはり、鑑山市の観光センターらしい規模が、必要ではないか。そういうような意味からいえます。ならば、当初、この条例が制定された当初、大体規模といったら、一千万乃至一千万五百万程度の、ということがいわれておったわけですが、現在、その程度のもうでは、当然、鑑山市の観光センターとして、發揮させるような代物にはならない。やはり、やるならば、そう十倍以上の資金を投入したものでなければ、鑑山市の観光センターという存在になり得ないという方向が、はっきりしてきております。そういうことから、京城も、張滯

気味でございませう。その他の外部資本の借入ということも今話題に上つてゐるもうございませう。そう
 した関係から、さうした一千万や一千五百万円の域であ
 るということば、この際、あきらめた方がいいのではないか
 というような意味でさういうことを申したいと思ひます。

・二番（君塚喜三君）私のお尋ねに對してのお答えとは
 取りません。ということば、なぜあきらめた方がいい根
 拠はどこにあるかということば、私は聞いてゐる。市条創
 ということは、**厳然**として生きてゐる。そのやうなときに
 おいて「なぜみんな方は城をあきらめないんですか」とい
 う言葉はどうして出ますか。

それには根拠があるはずですよ。「まだあきらめないんです
 か」ということは、このやうで、あきらめなさいといふこと
 があるかということば聞いてゐる。

・観光課長(小沢正治君) どのようなことを申した事実はござい
せん。

・二番(君塚喜三君) それまはつきりおっしゃることでございます。
・観光課長(小沢正治君) はい。

・三番(君塚喜三君) その席上において一人ではございません。

私は出席していただけたけれどもその言葉に憤慨して、その
ときに早退メモをして私のところに結がきておるようです。
その後、人の席上においても、その言葉が問題になった。
だれしも怒めていらつています。それにもう一つ重めて
市質問する。

市、観光センターとしては、一千二、三百万円もうでは小
もつと大きなものを依らなければならぬ。その市熱意はま
ことにありがたい。一か一城の上にとんな城を建てようと
おっしゃるのか。姫路城だとか、大坂城だとか、名古屋城

だとか、あつたものは平城だ。当初市長が依ろうとしたのは、波車城をまねて、大体年代的に一致することからして山城のものを依ろう。五間七間、三十五坪、その上に三層のものを依ろうということをはつきり議事録にのつておるんです。それには、一千二、三百万円のものでいいという當時の考え方だ。一かゝ。今日においては、物価が上にあつた。一かゝ。それで、ちつと小さい。仮に土間八間といふ一かゝでも、五十六、その上二階を一間ずつ積み重ねても、六、七、四十二坪、屋上を加えてせいぜい百十坪じやないですか。坪三十万の建設をもつていても、三千三百万円、現に二百五十万積立金がある。利子を加えまして、二百七、八十万あると、削いております。今仮に年二百万円ずつ積み立てて、六百万、三年すれば、それに、地えり、寄附をちかからば、一千万以上はできるとやない

ですが、国定公園事業というものは、原則として、国が三分の一、県が三分の一、市が三分の一、これが原則だ。しかし、城ということでは、その国定公園事業の対象とはならない。かといって、城ということでもございせんけれども、最初から、田村市長はそういうことをいつておる。

館山市博物館、考古記念館といった内容をもスルーしたいということもいつておる。

郷土資料館としてほしいということも要望しておる。

先日も申し上げました通り、これに対して、もう一つ、これは、文部省関係で相当の補助が取れるはずだ。展望台とということになれば、国定公園事業として三分の一あれば、さるはすなんだ。

そういうような観点から、積五金条例というものが制定されたものと私は思つておる。予算上の措置というものの

は、そういうところからきておるのではないか、というふうに私は
 考えておる。

地方自治法の二百三十九条の四、これは、あらかじめ、こういった
 ものを出して、あらかじめ、當惑なさるであらう。だから
 して、私は、あえて事務局に対してこの問題について市村
 議を願っておいた。こういうことで、多くの時間を貴重な時間
 をさくのは、不本意だらうして、あらかじめ、や検村を願う
 べく、それとなく示しておいた。

これによつて、市長が条例などを議会に提出する場合に新
 たに予算が伴う場合は、それに必要な予算を一緒に提出
 的、確かな措置を見込め得らるということでは、提
 出してはいけないという条例なんだ。

それが提出されておるということは、予算的の処置が的確
 に講ぜられたということなんだ。そこで本来の寄附行

爲う性格からいつて寄附というものをもらえない
かわりない。こういったものを基礎として、こういったものを
取原として予算に考えることは、予算に計上することは、
果して的確な予算、処置が講ぜられたと判断ができ
ますか。この点、どうなっています。十分、町村議ができたは
ずだ。

里見氏居城復元積立金条例の目的は、どうなっています。
金を積み立てることが目的ではないと思っております。

その名称、示す通り、里見氏居城復元のための積立金
条例である。従って、里見氏居城復元、資金金を依ること
が目的であるわけですね。それに必要な予算ということは、

田村市長が提案の際に賛向に答えていつておる。

一千二、三百万円ということが必要な予算ということになまわけ
です。そのとき、裏づけ、予算は百万円だ。残りの額

について廿、一般歳入の一部をもつて、毎年度積み立てる上
 いうことを原則として、それと認めたとというふうに解釈でき
 るかがです。この点助役さんにや回答願います。

助役（小出武男君）君塚藏員からいろいろ質問を
通して、趣旨はよくわかりました。ただ先ほどから主と
して、この条例について質問があり、それがために、私と
もと一では、この条例制定の趣旨を説明申し上げたわけ
でございます。

糸創では、毎回申しますように築城するため、資金を蓄積するということとでなく、この計画を推進するための資金であるというところに糸創の性格、ゆゑ主張の点と違ふわけでございますが、こゝは先ほども申し上げましたように情勢が大分かわつてきておりますので、この点は、右承議員さんの御意向もよく、聴取いたしまして、来るべき

当初予算までには、かつこうを付けこめて、すっきりしたものができていきたい。実はこういうふうに考えておるわけでございます。　　かように一つゆり承願したいと思います。

・二番(君塚喜三君)　その趣旨は了といたします。　一かし、この積五金条例は、市条例だ。市条例不履行という問題は、熊山城を建設する、ないという問題より、はるかに重大な問題と一つ、ゆり認識いただきたいと思っております。この条例が不履行になつてきたという点をさらに掘り下げて見れば、地元の要請にあつたということとやないんですか。私は概して皆とはいひませんが、市自体の企画によつてもう一つでは、寛大であり、積極的である。

一　かし、地元の要請によつてもう一つでは、決量であり、消極的である。こういう感じがする。　　実例をあげても

申しますよ。いいですか。熊山市民は何とか、市当局

はやってくるであらう。この位のことには、やってくるべきだ
 と思つておつても、一向にやってくるまい。だからして、しな
 んを切らして、がまんしきになつて、要請に及ぶ。そう
 いう事態がほとんどだ。

前臨時議会においても、学校施設についての請願上
 の取扱ひについて、いろいろの意見が表されたことは、記
 憶に新しいことだろうと思う。いうかれば、要請が出
 るということは、市政上、金困に起因している。場合がほ
 とんどではないんですか。声なき声を聞けとまでは、いいま
 せんが、ある声位は、もう少し、真剣に聞けてもらいたい。
 このようなことから、市条例軽視というふうな問題になつて
 くるわけです。市条例軽視の根本的な問題が、こういう
 ところに起因してゐる。そのことをさらにさらにこの問題
 は、重大だと私は思ふわけです。

だからして、この問題を一言重点を置いて中質問申し上げるわけです。

このことにつきましては、今後措置するということでございますので、そのために市条例の解釈が甘かったといひますね、軽視してあるということになるかと思ひます。

そのために三五年以降空白の時間をここに費やしてしまつた、まことに申し分けなかつたということであらうと思ひます。従ひまして、こゝが埋め合わせをするという氣持の上で、今後予算的措置をまた、その熱意を示さへんことを要望いたしまして、この問題に關する限り質問を打ち切りましよう。

一かゝりまだ、私の質問は、四項目になつておりますが、餘山城建設以外について、どのような計画があるのかという点については、お触れになつていらつてゐない。

この点も一つお考え願いたいと思います。

・市長(本間 義君) 現在市所知のように、館山城の建設するところには、櫓とか、つつじを植えて、美化しようというところであるわけです。その他に郷土館とか、展望台、そういうものを考えておるわけでございます。

・二三番(君塚喜三君) そうしますと、この積五金条例に従って、天守閣の内部は、博物館となるか、考古記念館となるか、郷土資料館となるかはわかりませんが、そういうものを作るということは、条例で示すところによつてやむということとは、中確認できるわけですか。

・市長(本間 義君) やはり、社会情勢と地元の方々のお考えにいろいろあつてきておる点があるのではないかとおもわれます。

そういう方々といういろいろ市意見を聞きまゝで、観光審議

会とか、いろんな機関を通じてこの問題は検討して参り
たい。こういうふうに思っています。

・三番(君塚喜三君) ということは、展望台ということは、それは
市長さんのお考えですね。もし、天守閣を依るべきだと
いうことであるならば、それをなさる。こういうことなんです
。市長(本間義君) それはですね。今、社会の情勢とか、い
んな面でその城についてはいろいろお意見があります。
その人々、お意見見等拝見して、それできめて参りたい。
こういうふうに思っています。

・三番(君塚喜三君) 意見というものは、三二年九月以前の問
題ではございませうか。

少なくとも、三二年九月以降は、どのような形で、早急に
作っていくところ、問題があるはずだと思えます。
いかがです。なほもし、こういったものを依るということになり

ますと、これは、不調和なものになるが、屋上屋を架す
ことにしようと思うんですよ。

先日ども賛同要旨の陳に申し述べたように、天
守閣、そのものが、その構造上から、屋上は、展望台を
なすものである。これは、だが、お考えになっても、それは、
である。片方に近代的な円筒形のような展望台を
お建てにやり、また片方に古風な城と建てる。

これは、あなた方が明治の維新前夜、鳥羽、伏見の
戦いの当時の信軍の姿、ちんまげをゆって服を着
て、鉄砲をかつぎ、ぞうりをはいたあねがいやすかつこう
だと思ふなら別ですよ。我々は、そうは思いません。
いろいろ現代的なものを作って、いつてからでは取り扱
し、つかない価値を滅殺するものであると思う。
それでなく、そういうものをかねることかできるとするならば、

ーかも、できないというところではないはずだ。

先ほども中説明申し上げましたようによくこの点を考え、
中において、中執行いたいただきたい。

私、最後の要望といえ、これだけ申し上げて、
本質問と打ち切ります。

・議長(黒川佐太郎君) ニハクテ休憩いたします。

午前 十一時五十二分 休憩

午後 二時 十二分 再開

・議長(黒川佐太郎君) 午後の出席議員数 三十三名、

休憩前に引き続きいて、会議を閉じます。

次に一々番議員付田実君登壇願います。

(一々番議員付田実君登壇)(拍手)

一番(辻田実君) 館山航空隊の拡張について、片質問
いたしたいと思います。

まず、館山航空隊が現在周辺に農地約四万二千坪
即ち、十四町歩を買収しようとしております。

さらに宮城や山林を开发いたしまして、航空管制塔
を建設いたした。そこでこれに関連した館山航空隊
の拡張について、市質問いたしたいと思います。
即ち、このように館山の拡張がなされておりますが、こ
によって、館山並びに防衛庁から予備文部打合せ
わけが市当局にむかっているのか、またなされてい
ないのか、まずお伺いいたしたいと思います。

市長は将来、館山が航空隊として拡大されることを
望んでおられるのか、また現状のままを維持してい
てもらいたいのか、さらに観光、産業、教育の面から縮小撤廃

してもらいたいのか。その希望所儘を明らかにしてもらいたいと思っております。

次に現在建設途上にある国民休暇村について、各分野から非常に期待がかけられております。そうして工費十億円を越えるところの房州観光道路もすでに起工の運びになっておりますのでございます。一か一現在、状況では航空隊があるために休暇村の中心となさるべき沖の島、さらには西岬海岸、南発に当って大きな支障を来たすものと思われるのであります。

そう一つには、爆音が激しく休暇村になる資格があるのかどうかということが疑わしいのであります。

二つ目には、テレビジョン映像が困難でございますので、休暇村に對するところのそういう面において非常に影響があるのではないかということですが、

三番目に遊園地並びに娯楽物、建設に当たって航空隊が近くだということでは制限が加えらるゝに配がないであらうかということであります。

四番目に休養者に飛行機だとか、そういうことで、危害を与へる恐れが多分にあるのではないかということに配がなす。さらにいろいろの問題にからみこめて休暇村でございます。で、いろいろな観望するようなこともありますが、すけれども、そういうようなことにおいて、紛争が起さる危険が非常に含まれておるのではないかと考えらるゝわけでございます。

このようにいろいろを総合しますと、休暇村の設立について、鶴岡市航空隊があることによつて、休暇村の設置と根本的に矛盾を生ずることが考えらるゝのでございませう。そこで、市長さんは、休暇村の建設を優先するの

さらには、航空隊の存立を優先するの如く、その所信を明らかにしていただきたいと思つてあります。

就いて、東京湾の沿岸漁業が衰微してゐるときに當りまして、今漁船は大型化してあります。さらに遠洋漁業に脱皮しようとしてゐるわけでございます。このときに當つて館山湾の使用が、航空上の観点から制限を受けるとではないかといふことが心配されるのであります。特に館山港は、商業港として大型船の着岸を可能ならしめようとしてゐるときにその問題を一そう深めざるでございませう。現に極洋船団の館山港の使用について航空隊との間に若干の問題も起こつてゐるというところを伺つてゐるのでございませうけれども、その真相を明らかにしていただきたいと思つてあります。

次に館空周辺即ち沼宮城、笠名、大賀、香塩見等

においては、現在ヘリコプター、爆音でテレビが見えないし、さらには、赤ん坊を寝かすこともできないというような状態があるわけでございます。さらに練習の日程によりましては、熊山小学校、西岬小学校等において、一時的ではございますけれども、授業を中止するというような場面も――ばーば見らへまうであります。

幼稚園、保育園の子供に対するところ、悪影響はもちろんのことでございます。従って、天気が悪くなりヘリコプターが飛べないと地元の人は、ほっとしてゐるが現状なのでございます。

その他にも物理的に、精神的に肉体的に爆音による被害は、想像できないものがあります。そこで、これらに対するところ、騒音被害対策をどうようにして講じてきたのか、これからどうやっていくのか、明らかに

もらいたいのでございます。

以上のことを質問申し上げます。

続いて市営住宅について質問する予定でございますが、今事務局長の方と話し合った結果質問を省略して以上の点についてよろしく願いたいと思います。

(市長 本間 譲君登壇)

市長(本間 譲君) け田議員さんの質問に対しては、回答を申し上げます。

熊空の拡張につきましては、当市に対しては、正式の申し入れは現在ところございません。カーニガら、現実の段階といえども、農地や買収等をしておるわけでございます。カーニガら、具体的な拡張契約は明示しておりませんので、観光をモットーとしておる市においては、お互いに所立する態にぞって話し合ってもらいたいと存じます。

国民休暇村との関連は現状においては第一向にお答えいたし、極力両立するように話合つて参りたいと思つております。

なお基本的矛盾が生じた場合には、これに對して十分考慮して善処して参りたいと思ひます。

館山港の使用については、館空及び現在利用中の二つの問題があるように聞いておりますが、来月耳々館山港と主催してあります千葉県が主催し、各利用者の募集を願ひ用済むる使用方法を研究する予定になっておりますので、必ず承願いたいと存じます。

ヘリコプターの騒音については、いろいろ耳にしておられますが、現在のところについては、救済策は取られておりません。南くところによると、館空においても、航空路等の変更を考慮してあるそうでございますが、この点についても今後十

を検討して参りたいと存する次でございす。

一番(村田実君)ただいまの答弁でございすすると、航空隊と休暇村については、両立を以ていくということとてございすすけれども、私は是れども申し上げまいなようにいろいろの面について、両立が不可能だというふうに判断してありますけれども、その点については、市長さんは、両立が可能だという観念に立っておるやうな、基本的矛盾が生じた場合に両方存続させるというふうに言われておりますけれども、両立させるということは、非常に不可能ではないか。現に室名、大賀、昭、あそこら辺に天気やいい日に行つておると、休暇村どころではないという感じが受けられるし、現にまあいうところで、休暇でできるはずがないということが、わかるわけでございますけれども、そういう点について、どっちを優先するかということについては、やはり、今言わ

いたように面立させていくということなのか、いずれを取るか
ということについては、決断が要るのか、ないのか、その点につ
いてお答え願いたいと思うわけです。

○市長(本間 康君) やはり面立していこうと考えております。
観覧の面についていろいろ、騒音とかいろいろうもったがあ
ってどうか、こういうことかと存じます。観覧の面から見
ると、ヘリコプターが目前にあって、いろいろいい面があ
るのではないかと、そういうふうにも思っております。

○一審(辻 実君) これは水かけ論になり、そうなる危険もありま
すので、一つだけ中実問いたします。

遊園地も建てることになる。現在と異なりますと、当然二階、三
階の、高層建築になります。さらに遊園地を設置す
れば泳ぐだけというわけにいきません。そこに遊園施設を
建てれば十メートル、二十メートルになつてくる。そういう面に於

空上、飛行上、何メートル以上、ものを建ててはいけないう
ことになつてどうするか。現在、漁業船団、エーストが高い
で航空隊、方に時間等を事前に打ち合ひてぶつか
ることのないようにという制限があつたということを用いてお
ります。事態がもうすぐでに南方航路、有料道路をある
こに、そういうことを前提として、工事が始まつているときに
いざ、工事になつた場合に、どちらもできないうことにな
ると困ると思つたのですが、その点については、そういう事態
が生じた場合にホテルを建てようを三階を一階にする
とか、制限するとか、もうすぐ三、四年の完成予定でござ
いますので、その点については、どうするかということにつ
いてお伺ひいたしたいと思います。

・市長(本間義君) 大抵いまの貫向の中に極洋捕鯨、マス
トが高く、というお話でございすが、これは市の方でも

副甲を付けたわけでございますが、防衛庁そのものも町
解いたそうで今に悩んで困っております。こういうことでござい
ますが、それから、休暇村の建物や件でございますが、
これにつきましても、現在防衛庁と厚生省が直接話を
進めておる。こういうことを申しておるのですが、そういう
ようなわけでございます。

○一々番(辻田実君) これは要望になさけれども、その点につき
まいて、両方ということでもって態度をあいまいにしないで
市の方策にそって休暇村を優先していくのか、飛行機
にそういう教育等がこりまわっている面も起きておるわけ
でございますけれども、その面に対して航空隊に対して市は
何を優先するのか、航空隊を第一に考えようのか、産業教
育の面を第一に考えようかという点についてもう少し態度
を明らかにしていただきたい。そうして、早急にそういう

態度を市長として、はつきりさしていただくことと要望
望いたしきもので、これ以上、討論しても永かけ論になりさ
すので、この要望を申し伝えきり、打ち切りたいと思ひます。

(拍手)

議長(黒川佐太郎君) 以上により、通告による質問を終ります。
日程第二一議案第百十七号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十七号 議決、変更について。

・職務課長(山口実君)

議案第百十七号について、説明申し上げます。

提案理由を申し上げます。地方自治法二百三十九条第二
項に地方債を起す場合、あらかじめ起債の方法、
利息の年率及び償還の方法について、議会の議決
を経なければいけないということになっております。

本件は当初予算を編成する当時取源を起債にあおいだ
のでございます。こゝらの取源につきましまして慎重を期
してございまして。一考してかえめに予算をお願いいたしてありま
すが、たまたまその後移動を生じたりでございまして、変更いた
してございます。次に借入先中の「全国自治協会」
は町村会のことでございます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこれにて質疑を打ち切り討論
省略原案通り可決するに付異議ございませぬや。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 付異議なしと認めます。よって本案
は原案通り可決さうなした。

日程第四議案第百十八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十八号 館山高等学校校用土地の購入について。

庶務課長(干場伊右エ門君) 議案第百十八号について作成明申し上げます。

先に館山高校に工業課程が併設が認められまして、その校地拡張のため昭和三十七年六月に佐藤広吉ほか五名より九反三畝七歩を購入することが議決されまして購入いたし、またその年の九月に中野平二ほか一石から二反一歩を購入することが議決されまして、それぞれ購入済でございます。その間において加藤長松所有の土地が本人の同意を得られなかったために、代替地を轉換するということとで、確約を得た次才でございますが、その後数回折わたる交渉の結果、この十一月に入りましてようやく代替地轉換の見通しがつきました。所有者の承諾を得ましたので購入の上、校地整備をいたしたいと考えております。園面がありますのが千四百四十四とあります。四畝三十三歩

はいは承諾を得てすでに埋め立てられてありまして、一反二畝二十六歩というものが、現在水うたまってある個所でございます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はいくつて質疑を打ち切り討論者略原案通り可決すヨに申異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 申異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第五 議案第百十九号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百十九号 熊山市専攻取組費給与条例の一部を改正すヨ条例の制定について。

正すヨ条例の制定について。

・庶務課長(干場伊右エ内君) 議案第百十九号について申説

明申し上げます。

この条例は、高等学校の工業課程教育において、実習を伴う工業に関する科目を主として担任する教員及び実習助手に対して支給させるための条例であり、教諭、助教諭、実習助手がこのに該当いたします。

教師におきましては、今年の四月から、館山高校に工業科が併設されて、その教諭現在には、実習助手はありませんが、教諭がこのに該当いたします。その支給基準は県の産業教育手当支給に関する規則により、手当の月額額は、給料月額額の百分の三を乗じて得た月額額となります。支給範囲は、教諭、助教諭で工業科目の授業及び実習を担当する時間数が、その者が授業、実習を担当する時間より二分の一以上を占めるものが、この支給される範囲の対象となります。

実習助手は、実習を伴う工業に関する科目について

教諭、取務を助けて行なう取務時間がその者の勤務時間より二分の一以上を占める場合に支給するということもございします。

議長(黒川佐太郎君) 本案は、これにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第六議案第百二十号を上程いたします。

(書記胡詭)

議案第百二十号 館山市学校安全共済掛金徴収条例の一部を改正する条例の制定について。

庶務課長(干場伊右エ内君) 議案第百二十号について中説明申し上げます。

この条例は、日本学校安全会法施行令の一部を改正する
政令、及び日本学校安全会法の施行規則の一部を改正す
る省令がそれぞれ改正になりまして、失済掛金の額が
十円から十八円に改められたものでございます。

当初、これを四月にさか上って取るということではございまして
早くこの条例改正をいたさなければならなかったものでござい
ますが、今まで遅れてまして申し分けないと思っております。
改正になった要点を申し上げますと、義務教育の該当
者、これは今まで二十円を市が負担して、そのうち十円を
子供が負担し、十円を市が負担するということだったの
でございしますが、今度の改正によりまして、十八円を子
供が負担し、十八円を市が負担するということではござ
います。

三五番(松本森太郎君)ただいまの十八円ずつの負担という

のは、公費が十八月負担、児童が十八月を出すということですか。

・庶務課長(干場伊右エ内君) 十八月というのは児童、生徒一人が十八月、市が十八月を負担いたします。

・三五番(松本藤太郎君) そうしますと、三十六月だということになりますね。三十六月という掛金を公費と児童等で半分ずつ持つ。これは、一カ年にですね。

・庶務課長(干場伊右エ内君) そうです。

・議長(黒川佐太郎君) これで質疑を打ち切り、討論者略原案通り可決するにや異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決されました。

日程第七 議案第百二十一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百三十一号

昭和三十一年度十二月に支給する期末手

当の特例に関する条例の制定について

。秘書課長(小倉隆男君) 議案第百三十一号について中説明申
し上げます。

本件に關しましては、先般から取員組合等より連協の線
を堅持いたしまして、交渉がふたつございすが折衝
衡いたしまして結果、本年は、普通、正式の条例にの
り月分を増給いたしまして、特別条例を制定するため本
条例を提案した次第でございます。

この第一条に四といたしまして、支給範囲を規定いたし
まして、第二条に一般取員の手当については、普通条例で
百分の百九十九を七十までして、百分の二百六十勤
勉手当が三十加わりまして、總計で二百九十九ということ

になります。

第三条は、これは同下く議会議員、期末手当でござい
ますが、百分の二百二十とあるものを百分の二百九十と読み
かえらうとございます。

第四条は、市長、助役、収入役等に對するものと、教育長の
給与条例、学校教職員、給与条例は市の一般職員、規
定を準用するということになっておりますので、これも同
く第二条の規定を準用する趣旨で改正した次で
ございます。

・三番(菊井敏博君) 市立における給食の任に當つてゐる人た
ちが非常に予算がかいたために現在まで安い労賃で働い
てゐる。非常に嫌な労働に耐えて生徒のために働
いてゐるということを知りておりますが、この人たちは技
術取員に相当する。子供を養つてゐる非常に重大な

任務。人たちだと思っておりますが、身分保証もないこの人たちは何とかの形でやる意思はないのか。

。教育長（工藤和平君）給食婦のボータスにつきまゝでは、七十日分を支給することになっております。

なお、只今、お話のございましたところから身分その他につきまゝでは、給食の重要性から申しまして、おっしゃる通りで、ございまして、ベース・アップの際にそれもめらめら合わさしまして、考えたいとも思いますし、なお、また普通の吏員並みということになると是教の方に関係がございしますので、市当局といろいろ折衝いたしまして研究の上でこの話を進めていきたい。かように思っております。

。三番（菊井敏博君）私は給食に当たっている給食婦、人は保母さんと同様だというふうに考えておりますので身分保証ということを明らかりたい。

給食の万全を期していきたいと存じますので、こゝに努力
していただきたいと思ひます。

二番(石井正君)期末手当につきまゝて先般新庫で夏
コーナですが、国家公務員に比べまゝで地方公務員、
特に市の取買の期末手当が高いといふことで、総務部
長より中止の勧告がきたといふような新庫を見たわけ
でございしますが、それにまゝして市の方で果の方との
折衝をいたすように聞いております。その結果について
お伺いしたい。なお多分各市で今まで考えていたよりも、
下った傾向があるか。その点についてもお伺いしたい。
さらに今後手当についてどうなるか変更があるか、その点
を付け加えて申説明願ひたいと思ひます。

秘書課長(小倉澄男君)も答へいたします。市質肉のとま
り実は、総務部長通達をもちまゝで地方特に県下

各市の期末手当が非常に高率を出しておるで地方
公務員法第二十四条、そういうような条例を列举いたし
まゝで國家公務員とも均衡を失きないようにしなければ
いけない、そういうことでこれに對しましては、地方財政法、
地方自治法の適用によりまして、或いは、起債等の減
額の措置が考えられるかもしれないというような非常にき
ついような、きつくないような通知が参つたのでございます
が、本市といたしましては、現実に段階といたしましてそ
ういうようなことはないと信じておりまして、県に向いて地
方課長と話し合ひをいたしまして、館山市の現状をみる
市に説明いたしまして、ところが、それでは、我々の取勝がや
はり地方行政を指導する、という立場でそういう意見にお
きまして、たまたま現在のボーナスというものが年々うなぎ
上りに上つていく傾向にある、ということでは、現実に金額の

面で申し上げておるのではなくて、率が非常に上つておる。そうとき、明示さへまゝですが、全国の都市、

県の現況を示さへたのであります。千葉県も全国で最高をいつておりまして、そう次に神奈川県が同じ率でございまして、その他の県におきまして、大休、二十六・五から二十七程度の支給率をいつておる現状でございします。こういうような現状におきまして、千葉県市の市は非常に均衡を失するではないかというようなお言葉があつたのであります。が、我々といひましては、現在の館山市の状況というやうなことをいろいろ説明した結果、それではというやうな了解点に達して、今回の二十九割昨年と同額とというような線を決したやうな次でございします。

なお、県下各市において、いろいろ状況を調査いたしました結果、木更津市においても、館山市と同様に昨年と

同額、野田市においても昨年と同額、大体正確な情報
は、実は甚だ残念でございますが、出ておりませんが、現
在のところ、同額を支給してある状況でございます。

それから、今度下げた傾向はないと思います。ただ一市だ
け下げたようなことがあってもいいということですが、予
測されるのであります。これは佐原市でございます。
これは下げたかわりにある程度操縦をしておるという
現状でございます。なお今度におきましては、現在の
館山市の給与体系というものをくつきまして、十分検討い
たしまして、またこれに対して善処して参りたいと考えておる
次第でございます。

・二四番(島野茂樹郎君) 二点ほど伺いたします。

期末手当については、条例で定まっておるわけなんですけれども、
当然、取組組合あたりから要求も出ておそらく話し合いを

しておまうではないかということですが、その点、交渉経過についてお聞かせ願いたいということが一つ。それから臨時取買の期末手当については、この条例では全然触れられておらないのですが、どうなつておるか。この二つについてお答えいたしたいと思います。

・秘書課長(小倉隆男君)も答えいたします。期末手当は取買組合との交渉経過でございますが、一番最初に取買組合は、連協の申しきます通り三ヶ月分を連協が合同請負といまして、提出さし、それで、それについて我々は市といましては、種々協議いたした上でございしますが、それについて、経過はとも現在の市の財政状態では、ゆまゆまないということになります。よくまでも昨年やりました実績は下回らないというふうなことを取買組合に回答いたしました。取買組合ともその後、たびたび話

い合います。ており、またところが、また、統務部長も、達も、ちまて、あまりに不均衡なもの、を支給する場合に、ついては、地方交付税や特別交付税が、減額さるやも、しやないということがあり、また、果におもむき、して、た、だ、今、申し上げ、した、了解、を得、た、う、で、あり、ま、て、の、も、う、で、は、ざ、い、ま、せ、ん、が、了、解、を、得、た、う、で、あり、ま、て、その、経、備、も、取、員、組、合、に、説、明、申、し、上、げ、ま、て、取、員、組、合、も、取、員、組、合、を、備、下、ま、て、全、員、に、協、議、した、結、果、それ、に、従、お、う、と、いう、こ、と、で、円、満、解、決、して、今、回、の、支、給、額、を、決、定、した、次、才、で、ざ、い、ま、す。

なお、臨時取員でございすが、これも臨時取員の組合がござい、ま、て、こ、の、が、市、に、対、して、要、望、を、い、た、て、あり、ま、た、が、こ、の、も、や、け、り、二、十、五、割、の、率、を、月、に、二、十、五、日、働、く、と、いう、こ、と、で、七、十、日、と、いう、こ、と、で、決、定、した、次、才、で、ざ、い、ま、す。

。二三番(中村省吾君)一点だけ申賛問いたします。ただ今、島野議員から賛問が来りまして、取員組合との経緯の件で取員組合も総務部長補選の件を話したところが了解されたということになっておりますが、率直に申し上げまして、アル予は出すのか、出さぬのかということでありまして、いわゆる生うまやう二十九ということまで要結したのかどうか、その点を願いたいと思っております。

・秘書課長(小倉澄男君)率直に端的に申しまして、アル予ではございませんが、それに當るべきものを支給する予定でございます。

・議長(黒川佐太郎君)本果はこゝにて賛疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よつて本果は

原案通り可決さうまいか。

暫時休憩いたします。

午後 三時〇〇分

休憩

午後 三時十四分

再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第八 議案第百三十二号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百三十二号 清掃用ダンプトラックの購入について、

・厚生課長(吉田耕一君) 議案第百三十二号につきまゝで、
明申し上げます。

現在清掃用トラック五台で清掃業務を行なっております。
わけでございますが、うち二台が六年、八年という老朽

化して参りますとともに修理費等もかさむというような
関係が一つとなお清掃区域が広がって多くなってきたと
いうようなことからいいて、トラクスの必要に迫られて
おるわけでございます。今回も願ひになつたわけござい
ます。

三菱ふそう丁七二〇型一九六四年式を採用したい。このよ
うに考えにわけございまして、ほかカメラ勅一及び会社
等もいろいろ調査いたしまして、結局丈夫な力のある
車という方も中に検討をお願いいたわけござ
います。九十五万円で千葉市登戸町一丁目百
二十八番地東関東ふそう自動車株式会社代表取締役
役桜井康夫と随意契約によって契約をいたしたい。
このように考えるわけでございます。

議長(黒川佐太郎君)本案はこゝにて質疑を打ち切り討論省

略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒リ佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は、

原案通り可決されました。

日程第九議案第百二十七号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百二十七号 電動記録計算機を購入について。

秘書課長(小倉澄男君) 議案第百二十七号について中説明申し上げります。

本電動記録計算機は、来年度の四月一日から開始いたします。事務改善に使用いたします。機械でございまして、鎌倉市が例、本年の二月以来、いろいろな事務改善を施行する、かということにつきまいて、いろいろ研究いたしまして、結果、戸別統合管理方式という方式を採用す

るに当りまして、この電動記録計算機がどうしても必要ということになりまして、ここに文化堂事務機株式会社
 がオリベッテ電動記録計算機、県代理店という
 うことになっておりますので、このこと随意契約によりまして契
 約を締結しないものでございます。

本件につきましては、地方自治法二百三十九条の二によりまし
 て、債務負担行為の議決といたしまして、来年度に支払
 いするものと。今回お願いした次第でございます。

議長（里ッ佐太郎君）質疑をこれにて打ち切り討論者略原案
 通り可決するにや異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（里ッ佐太郎君）や異議なしと認めます。よって本案は
 原案通り可決さうなりました。

日程第十 議案第百二十八号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百二十八号 事務改善用事務器具の購入について
秘書課長(小倉澄男君) 議案第百二十八号について仰説明申
し上げます。

こゝはただいま議案第百二十七号につきまして仰審議をい
ただきましてたことと関連性があるものであります。同トく四月
より始めます事務改善の発足のために三十八年度におき
まして、これも先ほど申しました通り戸別統合管理方式
にしますというところとアンドカード工業株式会社によります
諸器具を使用するということになります。で、本会社と随意契
約を結びまして、別表に掲げております二百三十二万二千円は
三十八年度の後加予算といたしまして本年中に支払う。
残さるべきは三百六十六万二千六百円の支払いは、来年度にお
いて支払うために契約を仰審議願う次第でございます。

・三五番(荻生田七郎君)事務改善に要する備品でございます。ろいで、異議はございませんが、ちつとお伺いたいことは、アンド工業株式会社ですか、パテントを買うのですか、この二種類、もうありますが、場合には、ほかの会社と比較して買うことになったのかどうか。本年度も追加予算として、二百三十二万ですか。来年度新予算の三百万円。これは、そのものは、来年度予算で購入するものと聞いていますが、直ちに本年度中に必要なのか、或いは、本年度追加で買う二百三十二万だけが本年度必要であつて、あともうは、来年度になつてもよろしいのか。その点をお聞かせ願いたいと思います。

・秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。

これはパテントでございます。アンドカードシステムというものを、戸別統合管理方式というものでござい

して、どうしてもこの機械を使わなければシステムに乗らないということでございます。

第二点につきましては、これは先ほど申しましたように、百二十七号のオリベッテと先ほど私の説明が足らなかつたかと思ひますが、オリベッテとここに上げました別紙一二、この三つが四月から発足するものでありますが、発足するためには二月一日現在において、この品物を市へ受け入れて、準備態勢を整えないと四月から発足できないので、この議決をお願いいたす次第でございます。

結果として、全部が二月までに納入していただくということでございます。

一、カー、そのうち三八年度予算で追加したものは、別紙の第一は支払う、残りのものは三十九年度予算から支払うというものでございます。

・三五番(萩生田七郎君)のかりまゝ。二百三十二万を現年度予算で払えばいいと思うのですが、このだけを追加予算に計上してゐるとは、来年払うという理由根拠を承りたと思います。

・秘書課長(小倉澄男君)その点につきましては、実はアンドンカードと交渉したのですが、二月に納入いたしまして六月一日で払う。支払いができないというふうなことで向こうとしても金利が低いということも言われておりますが、是非まけろという折衝をいたしまして、なるべく三十八年度予算において支払うことができるものは、追加できる範囲で追加いたしまして、こゝにお願いする次第でございます。

・三五番(松本藤太郎君)事務改善につきまゝ、何か事務改善対策委員会ですの、当局でできて、助役さんが、

委員長でやっておられるということは、全員協議会で用いた
わけですが、議案第百三十七号、百三十八号をここでもって
決める。要するに、予算も来年度も予算を制約した議
案がここできめるということになる。私もとては、正式に
議会として今日の姿がどうにかあるという具体的もの
は示さしていない。協議会でただ単に考え方を市
長さんから伺っただけなんだ。そういう前提のもとでこの
議案が一つ一つ可決されていくということは、何か不安が
ある。でありますので、決して反対するためには申し上げて
おろすではございません。この議案審議の過程を見ま
すと、全議員さんが賛成のようでありますから、内容を
ここで説明を聞いただけでも困る中で、委員会があり
実際にその議案についてあるものでありますからプリント
して全員に配っていくのだ。こういうことになって住民も便

利になるやうなところをプリントしてお配り願いたいと思
います。

・秘書課長（小倉登男君）是非そういうふうにしてお配りしたい
と考えております。

・議長（黒川佐太郎君）本案はこゝにて質疑を打ち切り原案
通り可決するに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よつて本案
は原案通り可決さへました。

日程第十一（議案第三百二十九号）を上程いたします。

（書記朗読）

議案第三百二十九号 千葉県農業信用基金協会の加入に

ついて

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）第三百二十九号につきまゝで中程

明申し上げます。

農業近代化資金の保証制度といしまして、果等に農業信用基金協会というものができておるわけでございますけれども、今回市町村につきましても、この協会に是非加入するようになつていふような要請が各市町村ごとに流されていわけでございます。

いろいろ検討いたしましての結果、本市におきましても保証制度を活用すべく本協会に加入したいというわけでございます。そして、示さるべき出資額が、五十九万円を出資の上で加入したいというわけでございます。

なお、この年度別の数字でございますが、上の方の棟の大きい額は、協会全体が目標額でございます。下の方の年度出資額は、五ヶ年度にわたりまして五十九万円を分けて出資することでございますので、よろしくお

願ひ申し上げます。

・二四番(島野茂樹郎君)不勉強で賛同するものが恥しいのです
が、お願ひせ願ひたいと思います。

農業信用保証協会に加入して、実際にこれを利用する場合に
合にという戸順といったら経費があるかもしれませんが、
実際に農氏が利用する場合、状況といひますので、それ
を中説明いただきたいと思ひます。

・農産脱計課長(伊藤幸太郎君)簡単に申し上げますと、基
金協会は各一般の農業の方が近代化資金を借りまし
て、天災或いはまたお家のご都合等で契約—よりた資金
も返せなかったような場合、そういった場合にこの協会が保
証して立てかえるというわけでございます。でありますの
で、例えば、いろいろ突発的な事故のために二万円なら
二万円、返さなければならぬ人が今申し上げたような特

別の場合、返せない事情が生じた場合、この協会が融資
機関に返すということでございます。これは、やはり近代化資
金の融通の上で大きな役割を果たすわけでございますので、
この協会に入りたいと思います。

・一四番(志村信依君) 今、中説明で救済方法の一つとして犬
へん結構なことです。が、実際問題といったら、まして農業共
済組合として混同する恐れがあると思います。そこを
はっきり答えていただきたいと思います。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 今、お話でございますが、芝
済は、災害に伴う共済制度でございます。今、議題にな
っておりますものは、いろいろ農業の経営の面で一般の
農家の方が耕耘機を置きたいという場合に手元に金
がないということで、農業共済にお願いして近代化資金と
融通するわけでございます。融通さへした資金を返

す場合に今申し上げた通りいろいろの事情のために、
返せない事情が生じたためにこの協会がかわって返し
ていく。もちろん協会が返したからといって本人が返さ
なくてもいいというわけではございません。そういう制度
でございますので、失済の関係とは事情がかわってくると
考えております。

・一四番(志村信作君) どうも今う片説明は納得いきませんが、
いろいろの場合と申しましたが、創をあげていただきたい。
・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 片承知と思ひますが、失
済は作物の保証制度でございます。この場合は作物
とは、もちろん関係ございませんが、農業経営、資金の
関係でございますので、失済関係とは、全然別個という
ことで考えていただければよろしいと思ひます。

・二五番(森生田七郎君) 結構な制度だと思つたのですが、農地法に

基いて政府は農業の構造改善等を強力におし進めておるわけでありすが、いわゆる近代化というのは、その一貫した仕事だと思つてあります。その場合に個々の農家を対象

とした、いわゆる出資金は保証人に対して出資するわけで、そういう場合に個々の農家を対象にした大体的目的は、農業協同組合というたもうが、中心となつて近代化或いは構造改善こういうものに大きく仕事を推進する。その保証というものが中心目的ではないか。私はそういうふうに聞いておるのですが、あなたに説明ではこの農民を対象にしてゐる。そのように拝聴しただけにども、間違ひでございせんか。

農産統計課長(伊藤幸太郎君) 今お話のとおり、議案そのものにつきましては、協会への出資でございします。

ただ、私が申し上げたいのは、近代化資金を各農家

が借りまゝでさうしてそれがいづう天災等のために返せなかった場合その場合に協会がかわつて融資機関に保証する。返すという制度のわけでございます。

本来につきまゝではあるまでも協会へは出資でございます。

・二五番(荻生田七郎君)それはいわつておる。零細の個々農家を対象にして保証であるが、或いは組合等を中心とした農地法に基く大きな事業推進。それに対する見返り保証であるか。それと。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)今うお話とおり個人の場合同も含まれます。いわゆる協同組合等の場合ももちろん入ります。

・三番(菊井敬博君)さうしますと近代化資金を借りる場合にはこの協会が保証がなければ貸さないということになるんですか。それによりまして協会に対して金利は何%とい

う保証料を取らへることがあるかないか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 近代化資金を融資する場合
には、協会とは関係ございません。あくまでも申し上げた通り
事情が生じた場合、協会が今度はかわつて保証するわけ
でございます。融資機関に保証する。

・二九番(鈴木市蔵君) 四、五年前に漁業資金として、館山市が
百万円の資金を調達したのですが、その場合と今度の農業
場の場合とは同じものかと思つたのですが、この金を市が出
資した場合に市の出資額を個人の農業が適用される
すか、さうませんか。この点を伺つて見たいと思ひます。

漁業の場合は市が保証してゐた。四百万円借りらる
と思つたのですが、何ら漁業に対しては、効果もなくて、
協同組合或いは個人がこの資金を証券を買わなければ
金は一銭も貸してくれないという結果に漁業の場

合はなつたんですが、農業もそういう場面に陥ると困るから、その点を伺っておきたいと思っています。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 市費内、今、話は出資額に依つて云々ということでございます。

・二九番(鈴木市蔵君) 館山市はこれだけ出資をいたうだ。農業近代化の場合に個人が借りる場合に個人もやはり出資額に依つて借りるようになるか。個人が出資をいなくても、市の出資額で借りる権利ができてくるか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) これは今のお話のと今度の場合には全然違ひます。

近代化資金を借りるものは、この協会とは関係がございません。もちろん農家の方が近代化資金という資金を借りるについて、この協会の出資分は全然関係がございません。再三申し上げた通り、農家の方が近代化資金という資金

を融通してもらつて何年かの計画でこゝを返さなければならぬといふだけでも、返すときに天災その他で返せない事情が生じた場合にこの協会がかわつて保証しようというわけでございます。農家の方は直接この協会とは関係ございません。

・二三番(中村省吾君)　そうすると保証協会の方で保証してもらふという利息と申しますか、笑巻を受けて返済できない。保証協会がかわりりた。そのあとの技術的な問題を中説明願いたい。こういうふうな利益が現われてくるのか。例えて申し上げますならば、返せない。だから保証協会が保証する。その保証協会に対してどういう姿で返済していくのか。利息とかそういうものがあるのか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)　保証協会がかわりりた場合、要するに債務者である農家の方と今度は保証

協会との一つの結びつきが出来るわけでございます。でありまして、例えば、十カ年の償還期間の資金に対して、事情によりましては、十五カ年に延ばしてやるとか、或いは、十七年間に延ばしてやるとか、これは、そのときの状況によりまして、協会とさらに農家の方、それから市役所関係、そういったもので協議の上で救済方法も考えていこうというわけでございます。

・一八番（西村真次君）近代化資金の実際に借り受ける場合に、承知だと思いますが、借り受ける個人は農地なり何なりある程度の財産に抵当権をつけるということが普通に行なわれております。一かも、その上に個人は保証人をも何名かつけているように見受けられるわけでございますが、一てきると、その人の債務保証ということとは、十分達成していきように思っておりますが、その上にさらに保証制度に加入する

必要があるかどうか疑問が生ずる。実際にこの制度を活用といいますか、これに加入したために利益を得ている人が実際にあるのか。私は、そこまでいかないうてはないかと思ひます。

。農産統計課長(伊藤幸太郎君) 最初、一点でございすが、確かに現状におきましては、農業協同組合が農家の方に貸しつける場合、抵当物件等の関係はやつております。ただ原則といつては、この制度ができてより、なおかつ市町村もこの協会に加入した場合、趣旨といつては、担保物件を取らないということが、趣旨でございましてあります。担保物件がないような方でも、融通ができるような円滑化をはかるため、一つの協会なうでございします。ただ、保証は八割までの保証だそうでございします。融資額、であります。五と二〇%

は、これはあくまでも個人、責任においてやるという制度だそうでございまして、その際で多分今後、問題としましては、担保の関係はある程度のもうけ、出て参るのではないかと、いう考えでございます。

一々番(付田実君)現在、餘山市が出ておるところの農業近代化資金の総額がどう位になるか、利子補給しているだけで結構ですから。

それから、たてかえらる場合、返済期間が短くなりますけれども、資金協会に対して利息を払うわけですから、場合によっては、果と市、国庫ですが、これでもって、三分なり、二分なりというものを負担して、おるわけでございますけれども、やはり、その負担については、やはり、が、い、か、その場合に、市町村の負担額というものは、

きれる。か。そのところをも伺いたいわけです。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 最初、中實街、総額でございすが、現在まで三千二百万円融資額が出ております。それから第二点でございすが、大へん申し分けなわけでございすけれども、かたがわり、た後、利子補給の問題、これは、まだ来春早々合合があるそうでございまして。その際、いろいろ細かい点について、打ち合わせをいたしたい。いうことで、ありきです。で、今、ところも答へは、うばさうで、いただきたいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決す。これより異議ありきせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中實議なしと認めます。よって本案は原案通り可決いたしき。よし。

日程第十二 議案第百三十号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第百三十号

館山市農業近代化資金利息補給条例の一部を改正する条例の制定について

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 本案につきましても、今回の国の近代化資金助成法の一部改正並びに果樹規則の改正に伴います字句の訂正とそれから、いま一つは、第二条にございます融資機関の関係でございます。字句の改正はいずれにいたしましても、融資機関の拡大が今度改正されたわけでございまして、従来は農業協同組合、中央農林金庫、或いは連合会というようなもの、が融資機関として指定されておたわけでございしますが、今度新たに一般の銀行、それから信用

金庫、これが追加されたわけでございます。それから融資
機関に対しても、利子補給をやって参ることになりま
う。で、今回の条例改正をお願いいたしたいというわけで
ございます。

それからいふ一点は、第三条中に「年四か五厘」を「年二か
に改めるといふ条項がございますが、これは従来、利子補
給のやり方というふうなもので、国が一か五厘、県が一か五厘、
市が一か五厘というふうなことで、一般の場合にはやって参った
わけでございます。ただ、その場合に県が負担の一
分を市町村に流し、市町村は、自分市町村か
の五厘に県から流れて参り、一か一分を加えて、そうして
利子補給を行なつておいたわけでございますが、今回県は、県
市町村は市町村として、はっきりと各自融資機関と契
約を結ぶなすということになり、それで、従来、四か五

厘を年二分に改めない。最高を二分に抑えるということでありまして、ただ、この改正にすぎまして一般の農家の方が、近代化資金を借りる場合にも従来というふうなかわりがございしません。ただ利子補給やリ方がかわったというわけでございします。以上、三点について、改正でございます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに決り異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第三十三 議案第三十三号、第三十四号、第三十五号、第三十六号を上げたいします。

(書記朗読)

議案第百二十三号

昭和三十一年度館山市一般会計歳入歳出追加更正予算

議案第百二十三号

昭和三十一年度館山市特別会計国民健康保険歳入歳出追加更正予算

議案第百二十五号

昭和三十一年度館山市特別会計休養施設歳入歳出追加更正予算

議案第百二十五号

昭和三十一年度館山市特別会計バス・ホテル歳入歳出追加更正予算

・秘書課長(小倉隆男君)歳出の人件費関係について(市)

説明をうけていただく予定です。

附記に記載しております期末手当、これは、右款項目にのりこめて記入いたしてございしますが、これを一括して説明いたします。

総額におきこめて一般会計におきこめて五百六十四万四千

四百円、これは、先ほど申承ねいただきました正規の条
例に対する不足分、追加額でございます。同様に特

別会計の各節に附記してございます通りでございます。
次に市役所職員費、旅費、十四万円、賃金、四十
二万五千円、消耗品費、二十九万円、備品費、二百三
十二万二千円、関係は、事務改善に要する経費でござ
います。

旅費は、市民、個別調査をやってありますので、職員に
対する、市内出張旅費とアインドカード等へ、出張旅
費でございます。

賃金は、ただ今までに、諸カードを作成いたしまして、
そのカードをもとらに整備いたしますために、延人員九百二
十五人、一人当たり三百五十円を計上いたしまして、四十二万
千五百円、それから消耗品でございますが、二十九万円は

事務改善が実施されますと、一応市民が窓口に参加し
たとき、あらゆることだが、その窓口で全部済むというこ
とになりさうなうで、関係した書類を全部袋の中に入れて
いただくということで、市民がその袋を持ってくれば、すべてが
済むのだということでは、市民にも好都合
市民袋一個五十円程度で依りまゝで、金庫に配給し
たいと考えております。

それから備品は先ほどお願いいたしたもので、代金でござ
います。 原材料二万円、これは、文書の統合整理をや
ります上におきます。文書の通知制度に使います器具
を依ります代金でございます。

営業費工事請負で十万円、原材料費で十五万円、
これはやはり窓口が一本になるということで、現在市
民課のあり場所では、少し狭すぎるということで、現在

予定しておりますところが農産統計課のところにも心と
を作りたいということで計画いたしておりますので、カ
ウンター等の異動、そういうようなことを計画いたす代
金は二十五万、その他報償費、十万円、これは、アンド、
カードにシステムを採用します上にあきまゝで、いろいろの
技術的の指導を受けるということでも二十万を計
上いたしております。

それから次の七万九千円、これはバロスと昨年度から使
用してございましてございしますが、一年の有効期間が切れ
ていってしまうので、修理の万金を期しないと思っております。

以上でございまして、最新バロスという委託を結びま
うで修理の万金を期したいと思っております。以上でござ
います。

。消防署長(岩田実君)消防費につきまゝで説明申し上げます。

第三目、旅費でございますが、これは当初に予定いたしまして研修その他、経費が物価の値上りその他で多くにかつて参りましたので、二万円の追加更正、六目、需用費でございますが、光熱水費の三万二千元、通信運搬費の二万円、その他、本年の三月まで、市の消防本部は総務課に設けてあったのでございますが、それが独立した消防本部として、消防庁令に移ったために当初の予算より多くかかるようになったために追加をお願いする次第でございます。

修繕料でございますが、これは、間もなく、現在船形分遣所に配置してございますタンク車のかわりになるべく新車が参りますために、現在本署にございますタンク車を船形分遣所に配置するようになるのでございますが、これが高々、奥行ともに、現在の船形

分償所の車庫に入らないためにこの船形分償所の
の拡張、これが約五万円かかります。本署にござい
ます船形分償所に配置いたします車庫の塗装、
エンジン関係の修理、これがやはり五万円程度かか
るために修繕料として十万円追加していただきたい。こう
考える次第でございます。なお、三二節の負担金補助
及び交付金でございしますが、これがやはり法律改正その
他で増額となりまして一百万円追加をお願いする次第
でございます。

消防団費でございしますが、これは更正でございます。
本年の四月の消防団の改変に伴いまして、本部長
或いは副分団長、それぞれそういう階級がなくなったために
四万円の更正をお願いする次第でございます。
それから燃料費でございしますが、これも一括、総務課

の方で支給するといったために十万円、更正をお願いいたします。

二四節の工事請負費でございますが、これは布良地区から新しく四十リムベの貯水槽の建設、非常に強い要望がございまして、これは、気象的に見ましても、非常に危険な地域でございますので、地元からそういう要望があつたならば、早急に設置の方がいいと考えまわけてございまして、これが二十五万円、それから佐野川の途中に二カ所ほど川止めをいたしまして、これが一カ所二万五千円、二カ所五万円、これで三十万円の貯水池建設工事費をお願いいたしたいと思います。

それから、三二節の負担金補助及び交付金でございます。

これは、消防団員等公務災害補償基金の法律改

正にヨリヨリで五万円より更正となつたわけでございます。
建設課長(新井重助君)四款土木費について市説明用
し上げます。

維持修繕費におきまして、今回百二十三万の追加をお
願ひするわけですが、その内容を申し上げますと、原材
料費、今度三月までになお相当の量が必要になつて参
りまゝで、百五十万円の追加をお願いする次第で
ございます。

修繕料で五万円、これは自動車、修繕料でございます。
消耗品におきまして四万円、これは、自動車のタイヤを
二本購入して入れかえたい。かように考えまして追加をお
願ひする次第でございます。

賃金におきまして二十五万円、臨時人夫の中に限
者がございまして、なお、その他に本年は欠勤者が

よけいございまして、総額において二十五万円程度の
資金が不要となりました。それを減額したいと考えてお
ります。

通信運搬費におきましては、県外砂利の購入におき
ます運搬費と荷おろし手数料でございますが、これ
を直営でやりますために、それより余りございまして、こ
れを更正予算に持たせていただきます。

次の新築改築でございますが、これは、三軒町踏地
から下に拡張した費用と飯能橋、この二カ所が
今回でございまして、その他広瀬の改良、この
経費が当初予算計上するとき、施設費も誤差があ
りまして、よけい金計上との関係上、工事請負費に
不足を生じてございまして、それを工事請負費に五十
六万四千円、なお特に追加の大きな三一節の

補償金でございます。こゝは、神余地先の渠道の舗装工事三百万円で行なうという通知がございまして、三百万円の二割五分、負担金七十五万円でございます。その他、藤原で改良と舗装工事をいたしまして、渠工事でございますが、その改良工事に伴います土地買収費、費用として四十万円、渠が実施した関係上、その四割十六万円が市の負担となりまして、たゞで、合計九十一万円、こゝが負担金でございます。以上、総合いたしまして、百六十万円の増加でございます。失業対策事業費でございますが、こゝは、当初延人員四千四百九十八人使うという予定のもとに、各工事計画をばとて、なつてございますが、その後、失業者の常雇化の促進がございまして、失業者の数が十人、前々常雇化されたので、約千人減りまして、三千四百六十五人

本年度就取させるということになりまして、当初予定いたし
ヨート大戸・畑原の改良工事が中止のやむなきに至りま
して、本件をやめまして、それゆゑにかかります費用を更正
してはかにも願ひいたす次第でございます。

・庶務課長(千場伊右衛門君)第五款の教育費について中説明
申し上げます。教育費は各項目^内の更正によりまして追加
更正をお願いいたすわけでございます。

まず、委員会費で四十三万四千円増でございますが、これは
給料十二万三千円、事務取員が二人の計算でございます
。だが、それが史員としての計算のところ、一名入ったので
、その一名分の追加でございます。

印刷製本費の三万一千円は、事務改善用、^学令カード
その他印刷代でございます。

報償費、五万円、これは小中学校の学生研究会の

講師謝礼、次に小學校費におきまして、二十万三千五百円、追加でございますが、そのうちの取戻手当は、期末手当でございます。旅費の二万三千五百円は、今度ミルク給食を行なうようになったのでございますが、その国庫補助といまして、三万七千五百円の補助がございまして、その補助が二分の一でございますので、その倍額を小學校と中學校に分けて、こゝに二万三千五百円、軍要保護児童ミルク給食扶助費として計上いたしまして。

中學校費、追加は四十五万七千七百円でございます。備品費三十万円、これは、技術家庭科設備費といまして、お願いいたしまして、これは、当初補助が二分の一ということだったのでございますが、今度それがかわりまして、今年から三分の一の補助にならないということで、三万追加して

全部で九十万ということでも願います。

次は扶助費の三万八千九百円でございますが、これは小学校と同じように準要保護児童のミルク給食費でございます。

次に高等學校費でございますが百六十五万二千八百円の減でございます。まづ、給料の五万四千円は事務取員が一人やめまして事務取員に当るものが今度入ったのでございまして、その関係が五万四千円でございます。

それから産業教育手当のものが十一万二千円、初任給調整手当が十万円、工事請負費で三百九十一万九千八百円の減でございますが、これは、校地埋立費に七十九万円、土地購入費の方に三十五万二千円、取員給、の方に五万四千円、取員手当の方に百七万一千円、他、目に百六十五万二千八百円の流用でございます。

次に幼稚園費で四十四万六千円、これは、期末手当関係
でございます。

次に社会教育費でございますが、これは、各目を更正或
いは追加いたしまして、一万一千五百円の減ということ
でございます。

次に青年学級費でございますが、九万七千円、追加で
ございますが、取員手当と報償費といたしまして、三万二
千円、これは、青年学級関係の各講師の謝礼でござ
います。

九項の図書館費で五万七千五百円の増でございますが、
取員手当、賃金とも、期末手当関係でございます。
備品費一万二千五百円、これは、書架の購入費で
ございます。

体育費二千円の増でございますが、これは、取員手当

期末手当関係で、賃金臨時用人一万千五百円を減じ
まして、期末手当の財源としてでございます。

食料費といひまして、六千五百円を減じまして、計上
にわけでございます。

。福祉事務所長（鶴沢實寛君）第六款社会及び労働施設
費の中の生活保護費におきまして、千五十万円を値加
いたしまして、これは、四月から生活保護費の基準が
改正されて、一七%引き上げになったための不足分
でございます。

なお、これに対する国庫補助十分の一、県費十分の一が
歳入として計上されております。

児童福祉費におきまして、六十二万九千五百五十円を
加でございます。

これは、市内の私立の保育費園五つに委託してあります。

保育園見の委託料でございます。

保育所費におきまして、七十七万九千六百六十円の追加でございます。そううち需用費におきまして、五十一万三千六百六十円、消耗品で十五万五千六百六十円、これは保育費の引き上げにすぎます不足分を追加でございます。補償費八千五百円、これは、十一月から、船形の保育園に電話が廃止になりまして、十一月から、三月までの費用でございます。

修繕料屋根修繕その他、修繕料の不足でございます。原材料費で十九万三千円、追加、これも基準改正に伴う給食費の材料、不足分でございます。

福祉事業諸費におきまして、負担金六万七千七百円を計上いたしました。

こゝろ、歳末助け合い交付金は、六万二千円、これは

現在福祉協議会で行なっております年末助け合いと呼
びたいことで、市から保護世帯三百十世帯に対して二
百円を交付するということです。

十二項の国民年金事務取扱費におきまして報償費
で十万円を更正いたしまして、これは、国民年金の納入に
対する報償金、市の納税組合と同様に今年の分
を来年に支払うという一年遅延にために更正し
たわけでございます。

印刷製本費におきまして、三万五千円、これは事務改善
のための国民年金カードの印刷代でございます。

・厚生課長(吉田耕一君) 保健衛生費について、説明申し
上げます。

伝染病予防費でございます。十六万円の追加、これは三
芳、錦山の一部事務組合でございます。そこで、そこに出すか

担金でございます。

本年当初大体内五名を予定いたしまして、予算化してあったわけでございますが、本年度十九名の集客を収容いたしたというふうな関係からこれに要した経費の不足をお願いしようというものでございます。

大葬場費、清掃費におきましては、それぞれの運営管理上に必要な費目に不足を生じた関係で今回このような追加をお願いいたわけてございます。

次う水増費でございますが、調査費で三十万円をお願いしようというものでございます。

旅費、食料費および一万円、二十二節委託料二十八万円と計上、これは、協議会で市長さんの方からも計画等のお話もございまして、三芳、富浦、この三市町村が計画等のお話もございまして、一部事務

組合を旅りまして、上水道施設を旅りたい。

このような関係から、いろいろ三市町村で話し合っておりますわけでございます。

近く市町村議会の意向等も現在お願いしてあるわけでございますが、でき得れば、三十八年度中に一部事務組合の認可、結成、までいくように努めたい。このような考えるわけでございます。

館山が大体六〇％以上、給水人口を持つような計画になっておるわけでございます。どうしても、市が中心になって、それまで、下調査、基礎調査というふうなものをやつて行かなければならないというふうな観点からいたしまして、この機会に専門家に下調査を委託して、完全な調査をして、そうして、一部事務組合へと引きついで、立派な上水道計画、そうして、完成

へと催めて参りたい。このように考えて委託料として
お願いしたわけでございます。以上でございます。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)産業経済費のうち、農
林関係につきまゝして、より説明申し上げます。

園芸振興費の二十五万の追加でございますが、これは
今回花の球根の乾燥施設の補助金として県から三十
万円のものが参りましたので、現在神戸地区の小原に
施設を設置したいと考えてございますが、その団体に対しま
して、出すというわけでございます。

畜産奨励費におきまして、百三十一万円の追加ござ
います。これは同様に県から、今回六十万円の補助が参
りまして、飼料の作物転換促進事業費として六十万
円補助金が参りましたので、それを追加いたします。
さらに地元の関係の寄附金を合わせまして、百三十五万

五千円をもつて事業を推進して参りたいということでも願
いますのでございます。

農業振興費におきましては、郡市の農林業対策協議
会が設置されておりますが、その負担金として当初予
定いたしましてのよりも、二万五千円が不足が生じて
参りましたので、今回不足分を追加してお願いいたし
たいというわけでございます。

次の第四項の農業構造改善事業対策費といたしま
して、十四万円の追加をお願いいたしたわけでございま
すが、これは、今回本市の農業改善地区といたしまし
て、山本、安布重地区を指定いたしまして、三十九年度
から実施の予定をもちまして、現在認可申請の作業
に入っておりますのでございます。

そのため、その間、不足と思われ、金額を旅費、

食料費負担金に追加見込みを希望いたします。
でございます。よろしくお願い申し上げます。

統計調査費におきまして、六万円の追加でございますが、これは、週日行ないました漁業センサスに現在かけあつておるわけでございますが、これもやはり県から集計費としまして、ある程度、人件費、補助が参りますので、今回六万円追加して臨時用人を雇い上げまして、作業を進めたいということでございます。よろしくお願い申し上げます。

・商工水産課長（長谷川広治君）水産費について、説明申し上げます。

需用費の三十二節で六十二万七千円追加を希望いたします。

これは漁業協同組合におきまして、実施いたした。

補助事業の科目変更と事業費の差額に伴うものでございまして、布良相浜で行ないました漁業無知の設置関係が沿岸漁業構造改善対策事業費補助金ということとで九十七万七千円、送付になったためにこれを追加をいたしまして、水産助成補助金として計画いたしまして三十五万円を更正いたしたものでございます。本件は、果ては補助金でございますので、歳入歳出に追加計上をいたしてございます。

漁港整備費として、工事請負費で十万円計上いたした。

これは、館山港の北条寄りに設置をいたしております。係船の浮標が古くなりまして、切れましたので、これを新しくいたしたいという考え方から十万円を計上いたしまして、修繕料の三万円を更正し、残りを一般取源に

求めまして、七万円を計上いたした次第でございます。

・観光課長（小沢正治君）観光費について片説明申し上げます。
追加額といたしまして、七十六万八千円でございますが、旅費、
又熱水費は、若干の不足額と来し、そうで来年三月まで
のおおよそ見込み額でございます。

次に施設費において、二百六十七万円の更正減額補償
費で八十五万円の追加、三十二節の公園整備事業に
対する地元負担金が二百五十五万五千円の追加とい
うことになるわけでございますが、一応関係がございま
すので、総合的に片説明申し上げたいと思っております。

果におきまして、休暇村に對します国定公園の整備事
業といたしまして、千五百十五万円という事業費が
決定いたしまして、従いまして、その三分の一の五百五万円
という額が熊山市の負担額ということになるわけでござ

いですが、当初予算におきまして、概算二百五十万の計
上を以てございまして、たかめに二百五十万の不足を来す
わけでございます。今回この追加をお願いするということ
とでございます。それと関係いたしまして、この工事の中に

見物地区の工事予定といたしまして、右郷浦の川か
ら波左向地区にかけての工事が約五百万になるわけで
ございますが、休暇村の第一着手工事といたしましては、先
ほど来入れが行わいまして、大体九百二十坪の延坪数を
持ちます。延坪人収容施設がでることになる予定で早
々に着工する予定となっております。そうした関係から

見物、漁業協同組合がその宿舍舎の修繕等になる
ということとで双方から事務所、車庫、取負の詰所、
そういったものが一応移転を要請されておるわけでござい
ますが、この移転補償につきまして九月の定例会に

において、極力、果て補償費を支払ふように努力する
という説明をいたしまして、たゞ、この公共工事の約五
百万円ものものが、その道路が有料道路と関係い
たしますところの接続道路として使用するに
なりまして、たゞの場合は、その道路工事は、公園事業としてで
なく、所管がかわってくるという観点から、西押地区の
開発で北条海岸が放置されるということは、工合が悪
いということ、で五百万円程度の額を北条海岸の無
料休憩所の鉄筋コンクリート化に予算がえさとして
もらいたいという交渉をして参つたのでございます。
たゞ、果て、果て方といたしまして、あれやこれやと市が
要求を全部受け入れるという態勢は無理でござい
まして、それを交換条件としてやむを得ず、見物漁
協、移転補償を市が金額持つという交換条件に

よりまして、そういう決定を見るに至ったわけでございます。
従いまして九月の定例会で七百五十万円程度ということ
で計上いたしました。

補償費にさらに八十五万円、追加をお願いいたしま
して、事務所が十五・二五坪、倉庫十八坪、従業員
詰所の六坪、物置が二坪というような建物を全面
的に移転補償を市が担当いたしまして、その交換条
件といたしまして北条海岸の無料休憩所を鉄筋
コンクリート化することとめていたのだきたいとい
うわけでございます。

宿舍が、そこに見物漁協のところにございした場合、当然
今まで漁協が使っておりまして、網干場とか、作業場とい
うものが、せめめらいて、もうわけでございます。そして、補償
事業といたしまして、漁協の前のでこぼこの岩場を平

地化いたしまして、これを網干場や作業場に造成して、いこうという工事と約百四十万円を含めまして補償費八十五万円の追加ということになるわけでございます。

それから施設費でございますが、当初市が責任を持って買収すべき土地四百八十坪で一万一千円ということ、四百八十万円を計上したわけで、その後一部変更やら現在進行しております道路の先の地区の買収が必要になったというような関係から、二百十三万円で買収は、全部完了するということ見通しが出て参りましたので、三十八年度土地買収計画といまして、二百六十七万を更正いたしまして、以下の財源に充当することになった次第でございます。

・選管書記長(大嶋重義君)十一款選挙費について市設
明申し上げます。

六項の衆議院議員選挙費及び最高裁判所裁判
官の国民審査費におきまして二十五万円を追加更正
をお願いいたしました。

これは当初予算に計上いたしましてのちに県から選挙
の委託金の内示がございまして、その内示額に基き
まして増加分が二十五万円でございまして、これを一
部更正を含めまして計上したわけでございます。

そのおもなものは、二目、旅費におきまして三万円、賃
金五万五千円、需用費で十六万五千円でございます。
これらの費目内訳につきましては、附記欄の通りで
ございまして、よろしくお願いたします。

・税務第一課長(高木哲三君)十三款の市税調査費につい

て市説明申し上げます。

九十九万八千円お願いたした。そううち市制製本で、
十九万二千円、これは、来年度より固定資産納税通知書
と市民税の申告説明書九万八千枚、特別徴収税額通
知、特別徴収ありあり 千冊分でございます。

二十三節の修繕料、これは、軽自動車、三月までの修
繕料一万六千円見込んで計上したわけでございます。

・税務第二課長(多田俊一君)第四目の奨励啓発費の十萬
円、追加について申し上げます。

これは、報償費でございます。市承知のとおり市
税のうち、固定資産税、市民税、これを納期前に金
額納付した場合、一度に全部払ってしまつたという場
合に地方税法の規定によりまして報償金が出るとい
うことになっております。

当初予算におきまして、大體税額五百十萬、額に二
十萬という予定を以てまいりましたが、現在すでに六百萬以上、
報償金において三十萬近くなっておりますので、今回新
たに十萬の追加をお願いしたわけでございます。

・終務課長（山口実君） 歳出合計、今回、追加額、二千七
百三十七萬七千七百四十圓、合計六億五百六十七萬千
四百四十圓、

次に歳入に移ります。

第一款市税で四百萬圓計上いたりました。たゞは消費
税の十一月末現在、状況を見まして、毎月二百五十萬か
ら二百六十萬の収入がある状況を見まして、一応、ここに計
上した次第でございます。

次に二款国有交付金でございますが、これは、今回決
定したものをここに金額計上したものでございます。

三款、地方交付税でございます。これも普通交付税が決定した上で、今回金額五百三十万追加計上したものでございます。

次に四款、営事業及び財産収入、これは競輪収入でございます。今まで、四回収納いたしまして、その後昨年の実績等を勘案いたしまして、一応百三十二万計上いたしまして。

三項の財産売却代金でございます。土地売却代金でございます。

これは、先般議会より審議をお願いいたしまして、熊野農協売却代金がおもむきでございます。

次に物件売却代金三十四万二千円でございますが、これは、那古山を中心とした松食虫、松材を競争入札にしまして売却したものでございます。

次に分担金及び負担金でございますが、百三十四万六千円でございますが、これは法律改正によりまして、其率
が改定さるゝに保育料でございます。

第七款 国庫支出金でございます。八百四十九万四千
四百円、追加をお願いいたしまして、そのおもなものは、
生活保護費負担金、これも法律改正にすぎます。基
準改定のもうここに計上にもうでございます。

次に県支出金、百九十四万八千円、計上いたしまして、
各節に説明があります。生活保護費以下各々決定
したものを計上したものでございます。

次に十二款 雑収入でございます。指定敷金でございます。
千六万二千円、これは本年度建設いたしまして千戸か
の敷金でございます。

十三款 市債でございます。ただいま決定したものをこの

ように計上いたしたのでございます。

歳入合計 今回の追加額二千七百三十七万四千四百円、
合計六億五百六十七万四千四百四十円、 歳入歳出差
引残金ゼロでございます。

議長(黒川佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 四時五十二分 休憩

午後 五時十一分 再開

議長(黒川佐太郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。
す。

保険課長(池田亮山君) 議案第百三十四号 特別会計国
民健康保険増徴 追加予算について、御説明申し上げます。
今回追加繰越は七十八万九千八百円でございます。

事業勘定の方が三十二万四千六百円、直診勘定の部が
四十六万五千二百円でございます。

事業勘定の部、歳出について、説明申し上げます。

第一款の役所費、実際費二万円の追加でございますが、
国保、運営協力組合長、実際費が不足する見込みで
ございまして、二万円計上したわけでございます。

次に三款の保健施設費、追加でございますが、取組手
当が十七万八千円、取組厚生費で四万九千円、追加、
いずれも取組の異動に伴います不足額でございます。
次に七款の諸支出金、追加でございます。

国民健康保険団体連合会の負担金、八万四千八百円
の追加でございます。これは、県連合会負担金が当初
予算計上いたした額がその後増額されたので、追加計上
保で六万八千三百円、不足を生じましたので、追加計上

にわけてございます。なお、国保体質改善運動促進
負担金が六千五百円、その他取組の研修費等の特別
負担金といた一基で、一万円を見込みまして、合計八
万四千八百円、追加でございます。事業勘定から追
加額が三十二万四千六百円、合計八千五百五十三万
千二百円、予算額と変わっております。

なお、この財源といた一基で、前年度の繰越金をも
って充てられてございます。

なお、この財源といた一基で、前年度の繰越金をも
って充てられてございます。

直診勘定からつきまゝでは、事務長。方から申説
明申し上げます。

。豊房幹事所事務長(岩崎一郎)直診勘定につきまゝで、
片説明申し上げます。

取員費でございますが、第一目の取員給、これは、五月の人事異動に基づきまして、不足額を計上したのでございます。なお給料は、十月より一名吏員に昇格いたりましたので、更正いたしまして、十万円給料の不足額に充てたいというところでございます。

取員厚生の方でございますが、これは、人事異動に基づきます共済並びに限取負担金、こちらの不足額でございます。

次に第三項の需用費の消耗品費一万円、及び第三項の一日医療器具費、修繕料一万でございます。

三月までの不足額が見込まれますので、追加をお願いいたしますので、よろしく御審議のほどをお願いいたします。

。観光課長（小沢正治君）議案第百三十五号休養施設の

追加について、説明申し上げます。

今回、追加は、鳩山荘の電気冷蔵庫の施設請負工事費、四十五万円で一般会計の繰り出し、百万円でございす。

財源といたいまして、前年度繰越金百三十九万七千七百九十円、こゝで前年度繰越金の合計二百五十九万四千九十円となりまして、三十七年度の大体決算の額でございす。こゝを財源といたいまして、一般会計に百万円繰り出し、いたしまして上に工事請負費の四十五万円の冷蔵庫の施設は当初設置いたしまして、冷蔵庫が古くなりまして、関係とさらに別館増築によりまして面積が非常に狭くなった関係で廊下の外に一坪程度増築をいたしまして、その中に一馬力モーターのタイル張り、冷蔵庫を設置したいというも、

でございます。 財源といひまして、消耗品を節減
いたしまして、十五万程度の更正をして財源に充ちた
いというものでございます。

次に議案第百二十六号、テス・ホステルの追加更正でござい
ます。これも歳入といひまして、三万四千四百円追加いたし
まして、決算額にいたわけでございます。

歳出の追加更正の内容といひましては、旅費一万五千円、
職員手当、期末手当三万一千円、共済組合負担金八千円、
永年三月までの大体不足見込み額でございます。

電気料の三万五千円、これは、用水ポンプをすえ付けた関係で若
干不足を生じたわけでございます。

電話料約一カ月千円程度の不足が見込まれますので、
永年三月までの不足見込み額でございます。

次に備品費といひまして、五万五千六百円更正減額

いたしましてが、このよう追加いたしますにつきましても、歳入の繰越金だけで充當できませんので、これから購入予定の備品費の節減によってまかなつて参りたい。このように思うわけでございます。

議長（黒川佐太郎君）以上で説明を終りました。

議案第百二十三号乃至第百二十六号に関する質疑を願います。

一六番（岡武夫君）賤原がないないといわれながら二千七百円が追加をひねり出したことは、市同慶に耐えない次第でございます。

歳入について二、三も尋ねたいと思います。

先ほどの総務課長さんの説明で、地方交付税について一般交付税が減ったけれども云々という聞き取れなかつたんですが、五百二十万が追加で今年度の交付税がこれが多い

終的なものであるかどうか。なお、あと特別交付税が出るのか。その点についてお願いいたします。

第6款の使用料、手数料でございますが、住宅使用料で十六万二千円の追加でございます。市営住宅の使用料の徴収方法と申しますか。というふうに集めておられるのか、それとお伺いいたします。

それから手数料、清掃手数料が百万円追加でございます。これは、今回ゴミの集め方が悪いというやり方をしたため増加と存じます。この百万円の算出の基礎について、説明願いたいと思います。

・総務課長(山口実君) 第一点、地方交付税について、説明申し上げます。

ここに計上したものは、普通交付税決定分金額計上いたしまして、特別交付税については、確定しておりますので、

考えておれません。

・福祉事務所長（鶴沢貫寛君）住宅使用料の徴収方法でございしますが、毎月本人が福祉事務所へ窓口を持ってきて徴収しております。

・厚生課長（吉田耕一君）手数料につきましては説明申し上げます。大体、私どもがつかんだ基礎でございしますが、従来取っておりますリーナ対象世帯数が千八百だったわけです。

それを皆さまの方の協力によりまして、第一回モデル地区を実施いたしまして、大体二千八百位になったというような状態となっております。数が四千三百戸位になっております。わけでございします。それを今後まだ、いろいろ予算等々関係もございまして、こちらで地域として指定はしておりますが、そういう面を現在交渉しておりますので、大体、見込める数が残り千二、三百程度というよう口観

点からいって、最初の見込み額よりも、大体三千程度
の増が見込めるのではないかと、いうふうな考え方をもつておる
わけでございます。それと一世帯と申しますか、四十円とい
て、計算をしておるわけでございます。なおそれ以外のこれ
は、はつきりここに書いて参りません。たが、一世帯であつても
大きなバケツを二つ、三つというふうなものも、一世帯と数
えておりますが、そういうものは、二世帯、三世帯と計算し
まゝで、大体、九十二万一千円、程度は、集まるだろうというふうな
ことでございまして、まず、それよりも、多分ふえるだろうと
いうふうな見当でございしますが、そういうふうな考えで、一応
百万円程度は、見込めるのではないかと、いうふうな関係で
今回百万円の収入を見込むということで、なお、私もも
こり財源といふことで、こういうものを見るというものは特
に苦しい立場でございしますが、清掃地域がなくなつて

きだといふことに機械がそれに伴ってない。ゴミの車が伴っていないといふような観点からしてもどうしても、もつと多くの加入を進めまして、そうしてこの歳入の線まで持っていくといふような考えているわけでございます。この財源にすぎまして車をもう一台買って馬力をあげて進めていきたい。このように考えて車を買う一つの財源としてここにお願ひいたわけでございます。

・一六番(関武夫君) もう一つお尋ねします。厚生課長さんに予算の關係で今後新規に申し込みをしてもダメだといふような話を私聞い込んであります。今後千二百戸位ふえまじろうといふことで、その点について今一度、市説明願ひたいと思います。

福祉事務所長さんにお伺ひしますが、使用料の件ですが、もし本人が市役所に持ってきてこなかった場合、滞納の場合

合どういうふうにお取りになつておるか。

・厚生課長(吉田耕一君)大体予算という関係がございましてはつきりした線は、ここで発表できかねますが、私も実際に各町内会の熱心な代表者や要請によりまして、どうしてもすぐやりたいのだというふうな実情があるわけでございまして、さういふ面につきましては、できるだけ話し合ひをいたしまして、業者と話し合ひまして、受益者の個々の負担の半額をまず払つていただいて残りを市の助成というふうな面で私も考えております。半分は何とか現在要請を申し出てございます。予算に追加を願つて支払いをしております。いろいろな方法を。実際に若い答弁ですが、さういふふうな考え方がいろいろあれば何とかなるうではないかというふうな考えております。

・福祉事務所長(鵜沢貫寛君)滞納の場合には、係事務

のあいまを見まゝで、督促に回わっております。

・ニニ番(君塚喜三君)　ごみ容器の収集につきまゝで、一六番議員さんの質問に関連をまゝで、お尋ねするわけですが、だいたいその説明によりますと、モデル地区の拡張分として、千二百世帯分の確保であるという中答弁があるわけであります。モデル地区で新入してくるものがあるわけですが、それに対してまゝでも、やはり補助が必要だと思つてあります。が、こういったものは、それぞれ千二百世帯の見込みの中に含まれておるかどうか伺いたいと思ひます。

・厚生課長(吉田耕一君)　大体、私もが計画しております。特別清掃地域内のもうは、全部計画に入っております。特別清掃地域と申しまゝで、簡単に申し上げますと、船形、那珂、館山、北条、こういういわゆる農村地域を除いた地域を、一応特別清掃地域としまゝで、大体、大千

世帯をおさえて現在進めておるわけでございます。

そう一たものは全部一応入っていたべくようにするのだという
考えで現在進めておるわけでございます。従つてそう一た面
を談話させていくというふうに考えております。

・一六番(関武夫君) もう一つ歳入についてお伺いいたしたい。
第七款の国庫支出金で第二項国庫補助金でございますが、
まず、建設課長さんにお伺いいたします。

失業対策の四十万の減でございますが、これは失業者
が減つたために支払いが減つたというふうな説明があつたの
ですが、その場合、予定の失業対策事業の遂行ができて
るかどうか。

・建設課長(新井重助君) お答え申し上げます。やはりはでき
ませんので、大戸から畑に移ります。山越地先の土地改良
事業を翌年度に繰り延べました。

どう位減ったかというところ、約百人あまり減ったわけでございます。その労力費が三分の二の補助金でございます。その分だけ四十一万減らして工事をその分だけ減らしてでございます。

議長（黒川佐太郎君）議案第百二十三号乃至第百二十六号に対する質疑はこのまゝもって打ち切り討論省略原案通り可決するに中異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

本日の会議はこのにて散会といたします。

次会は明後二十一日午前十時開会といたします。

その議事は、認定第一号乃至第八号、昭和三十一年度一般会計並びに特別会計決算書、審議とい

ります。

午後五時三十分 散会

本日、会議に付いた事件、

一 開会

一 議長報告(出席説明者)

一 会議録署名議員指名

一 会議期決定

一 市長議案提案説明

一 以下議事日程を通り、

規定第一号乃至第八号は上程したのみ。

出席議員

吉田勇治郎

鈴木正一郎

小味孝

田中祿郎

秋山六三郎

田村源治郎

望月照正

安西益男

什田実

石井敏博

黒川佐太郎

菊井敏博

志村信作

小沢恵太郎

関武夫

飯田義男

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

若塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鈴木孝

嶋田繁

山田教宇

鈴木市蔵

安藤通吉 安沢徳順

三天 節 高橋文治

山本 昇 松本藤太郎

山口 康

大席議員

館石伝蔵

[illegible]

